

東京帝国大学大学院特別研究生候補者の研究事項解説書

— 昭和十八年度～昭和二十年度 —

小幡圭祐

吉葉恭行

解題

1. 大学院特別研究生制度と研究事項解説書

昭和十八年十月一日に施行された文部省令第七四号「大学院又ハ研究科ノ特別研究生ニ関スル件」に基づき実施された制度が大学院特別研究生制度である。筆者らはこれまで、東北大学史料館に所蔵されている「大学院特別研究生関係」史料¹などを用いて、戦時下の東北帝国大学を事例として、この制度について調査・研究を進めてきた²。

その一方で、東京大学史料室にも「大学院特別研究生関係」史料が所蔵されていることは、すでに明らかにされていたため³、史料室の協力を得て史料調査を実施した。

大学院特別研究生が採用される過程は、まずこの制度の実施対象となった一二大学より候補者が文部省に推薦され、次に文部次官を会長とし、実施対象大学の総長・学長一二名のほか、企画院第

三部長、陸軍省兵務局長、海軍省人事局長らから構成される文部省の銓衡委員会に諮られその採否が決定される、というものであった。

この銓衡委員会の資料として提出が求められたものとして、研究事項、人物、学力等ニ関スル調査表（第一号書式）、履歴書（第二号書式）、研究事項ノ解説書（第三号書式）、身体検査書（高等学校教員規定第四号書式ニ準ズ）の四書式があつた⁴。これらの資料のなかでも第三号書式である研究事項解説書は、候補者毎に解説の書かれ方や用語の用いられ方などに特徴が見られ、大変興味深い。

本稿では、東京帝国大学が作成した研究事項解説書に現れた特徴や、大学院特別研究生候補者が書類上ではいかなる研究課題に取り組もうとしていたのかなどを明らかにすることにする⁵。

2. 東京大学史料室所蔵の研究事項解説書

東京大学史料室に所蔵されている戦時下の三年間の大学院特

表1 研究事項解説書数

	昭和18年度	昭和19年度	昭和20年度	計
法学部	2 (1)	-	6	8 (1)
医学部	13	15	12	40
第一工学部	23 (1)	28	37 (3)	86 (4)
文学部	15 (3)	-	14	19 (3)
理学部	15	17	23 (2)	57 (2)
農学部	20 (5)	18	17 (1)	55 (6)
経済学部	8 (1)	-	-	8 (1)
第二工学部	8 (1)	27	31 (3)	66 (4)
計	104 (12)	105	140 (9)	349 (21)

※ 『昭和十八年度大学院特別研究生関係』、『昭和十九年度大学院特別研究生関係』、『昭和二十年度大学院特別研究生関係』より作成。

※ () 内は追加募集・応募分で内数。

※ 1人の候補者に対し下書きを含め複数の研究事項解説書がある場合も1件として算出した。

※ 複数の候補者に対し1つの研究事項解説書しかない場合も1件として算出した。

※ 昭和20年度の第2期分は除外した。

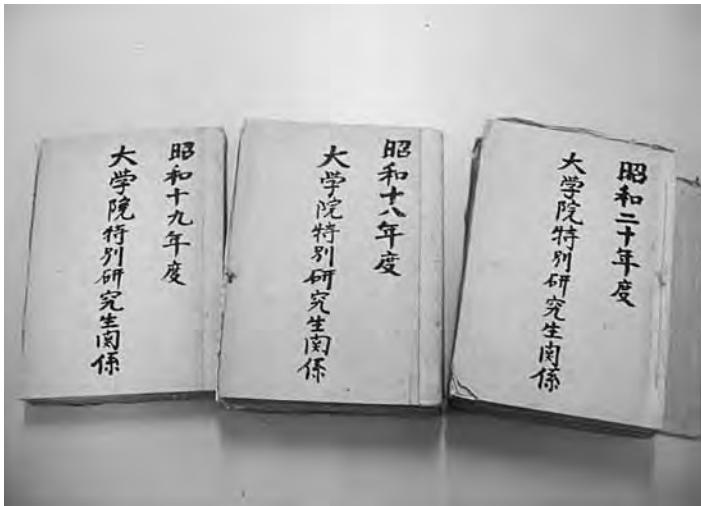


写真1 大学院特別研究生制度関係史料

別研究生に関する史料『昭和十八年度大学院特別研究生関係』、『昭和十九年度大学院特別研究生関係』、『昭和二十年度大学院特別研究生関係』において、昭和十八年度一〇四件、昭和十九年度一〇五件、昭和二十年度一四〇件、合計三四九件の研究事項解説書が確認されている(表1及び写真1を参照)。

これらの研究事項解説書は文部省に提出されたものの控えと考えられる。



写真2 研究事項解説書（左のページ）

多くは東京帝国大学と帯に大学名が記されているタイプライター用紙（B5タテないしB4ヨコ）に和文タイプされたものであり、なかにはわら半紙に手書きされたものもあった（写真2を参照）。なお研究事項解説書の全文は翻刻し、解題の後に掲載した。

研究事項解説書は、文部省に提出する書類四書式のなかでは、研究事項の緊要性のみならず、各候補者の資質や適性などの個別性を最も表し易い書式であるといえる。とはいうものの作成する上で、

文部省通牒に示されたいくつかの留意事項という制約があった。

以下では、それらの留意事項が如何に反映されていたのか、興味深いものについて取り上げ記してみたい。

なお、昭和二十年度第一期候補者の解説書には、戦後に作成された法学部・文学部のもが含まれており、また他学部でも戦後に作成・提出されたものも含まれているが、そのまま翻刻・掲載している。

3. 研究事項解説に要した字数

研究事項解説書は「解説ハ長キニ失セザルコト」という基本的な留意事項があったが、具体的な字数制限は示されていない。ここではまず、学部毎、年度毎の研究事項解説に要された字数についてみてみたい。

なお三四九件分の研究事項解説書本文の字数を年度毎に表2、表4に整理し、それらの最大値、最小値、平均値を表5にまとめた。

表2 大学院特別研究生候補者の研究事項解説書（昭和18年度）

典拠：『昭和十八年度大学院特別研究生関係』による

所属学部	史料番号	研究事項	解説文字数	所属学科・教室	前職(他大学)	採否
法学部 (12名)	18-法01	経済統制法	929 (1人 平均84)	政治学科		○
		商事法の全般的研究		法律学科		○
		企業形態法		政治学科		○
		農村土地制度の研究		政治学科		○
		都市土地制度の研究		法律学科		○
		行政法理の研究		政治学科		○
		刑法学の研究		法律学科		○
		外交史		政治学科		○
		東洋法制史		法律学科		○
		英吉利法制の研究		法律学科		○
18-2-法01	日本国家ノ理念ト大東亜共栄圏ノ建設	751	政治学科		●	
医学部 (13名)	18-医01	戦傷病ノ後療法	63	医学科物療内科学	助手	-
	18-医02	心臓ノ障碍部位ニ関スル実験的並ニ臨床的研究	155	医学科佐々内科	副手	○
	18-医03	綱草根ノ成分研究	76	薬学科生薬学	副手	○
	18-医04	結核性関節炎の関節鏡学的研究	38	医学科整形外科	助手	○
	18-医05	航空上必要ナル錯視	48	医学科眼科	副手	○
	18-医06	1. 航空病理学ニ関スル研究 2. 各種伝染病ニ於ケル生体ノ反応ニ関スル病理組織学的研究	142	医学科病理学	副手	○
	18-医07	非特異性免疫現象ノ研究	172	医学科血清学	副手・特選給費生	○
	18-医08	外科的結核症	143	医学科都築外科	副手	○
	18-医09	「コレチコステロン」類似化合物ノ合成	71	薬学科		○
	18-医10	細菌学殊ニ熱帯伝染病学ニ就テ	46	医学科微生物学		○
	18-医11	脳波ノ研究	57	医学科精神科		○
	18-医12	外科学一般、殊ニ腹部外科	76	医学科大槻外科		○
	18-医13	抗菌免疫ニ関スル研究	163	医学科微生物学		○
第一工学部 (23名)	18-一工01	船体抵抗推進ニ関スル流体力学的研究	316	船舶工学科		○
	18-一工02	超短波ニ関スル研究	56	電気工学科		○
	18-一工03	電気通信装置ノ研究	58	電気工学科		○
	18-一工04	過熱噴流推進機構及航空用内燃タービンの主として熱及び流体力学的研究	176	航空学科 (原動機専修)		○
	18-一工05	石炭及諸鉱石ノ選鉱学的研究	156	鉱山学科		○
	18-一工06	超短波装置ノ研究	70	電気工学科		○
	18-一工07	金属材料の物性論的研究	207	物理学科力学研究室		○
	18-一工08	機関銃ノ研究	71	造兵学科		○
	18-一工09	木材中のリグニンを利用する木材強化の研究	372	応用化学科		○
	18-一工10	アルミニウム電解浴ノ変質防止ノ研究	133	応用化学科		○
	18-一工11	航空機用マグネシウム塗料並ニ特種塗料の研究	336	応用化学科		○
	18-一工12	耐爆構造に関する研究	213	建築学科	大学院学生	○
	18-一工13	重要都市の総力戦的再編成に関する研究	195	建築学科	大学院学生	○
	18-一工14	高速度空気力学ノ研究	64	航空学科		○
	18-一工15	金属タングステン精錬並ニ其の工業的応用	228	造兵学科		○
	18-一工16	耐蝕性特殊合金ノ研究	176	冶金学科		○
	18-一工17	金属材料特ニ航空機材料ノX線分光学的研究	137	物理学科放射工学実験室		○
	18-一工18	都市の戦時的再編成に関する研究	273	建築学科	大学院学生	○
	18-一工19	工場の採光改善及び漏光防止に関する研究	256	建築学科	大学院学生	○
	18-一工20	空気力学の研究	52	物理学科力学教室		○
	18-一工21	海水ヨリマグネシウム及ピカリウム塩採取ノ研究	219	旅順工科大学応用化学科	(旅順工科大学)	○
	18-一工22	軍用染料ノ合成ニ関スル研究	69	名古屋帝国大学工学部 応用化学科	(名古屋帝大)	○
18-2-一工01	透過X線ニ依ル航空機材料検査法ノ研究	154	九州帝国大学理学部 物理学科	(九州帝大)	●	
文学部 (15名)	18-文01	敬語法ノ研究	437	大学院 (文学部国文学科)		○
	18-文02	最近世世界史(日本ヲ本位トシテ)	798	西洋史学科		○
	18-文03	ドイツ古典時代ノ言語哲学	155	独逸文学科		○
	18-文04	支那農村社会ノ研究	170	社会学科		○
	18-文05	記憶ノ研究	365	心理学科		○
	18-文06	仏蘭西古典語ノ成立	157	仏蘭西文学科		○
	18-文07	芸術論史	180	美学美術史学科		○
	18-文08	支那ノ宗教思想並ニ信仰生活 特ニ道教ノ思想、生活研究	652	宗教学宗教史学科		○
	18-文09	満洲八旗ノ研究	285	東洋史学科		○
	18-文10	安南語ノ研究	289	言語学科		○
	18-文11	律令制ノ研究	251	国史学科		-

所属学部	史料番号	研究事項	解説文字数	所属学科・教室	前職(他大学)	採否
文学部 (15名)	18-文12	米英国民性ノ研究	89	英吉利文学科		○
	18-2-文01	日本民族ノ倫理学的研究	249	倫理学科		●
	18-2-文02	国学ノ研究	277	国文学科		●
	18-2-文03	東亜諸民族ノ生活ト戒律	255	印度哲学科		●
理学部 (15名)	18-理01	整数論	47	数学科		○
	18-理02	物性ノ分子論的研究	125	物理学科		○
	18-理03	物質構造論	135	物理学科		○
	18-理04	量子力学	67	物理学科		○
	18-理05	素粒子及ビ原子核ノ理論	81	物理学科		○
	18-理06	極超短波ニ関スル研究	53	物理学科		○
	18-理07	地球物理学的方法ニヨル地殻構造ノ研究	84	地球物理学科		○
	18-理08	コバルト及ビニツケルノ地球化学	72	化学科		○
	18-理09	稀元素ノ化学的研究	59	化学科		○
	18-理10	船底、飛行艇ノ生物著生防止ノ研究	132	動物学科		○
	18-理11	植物色素ニ関スル研究	132	植物学科		○
	18-理12	光合成ノ機作ニ関スル研究	127	植物学科		○
	18-理13	地殻ニ於ケル物質移動ニ関スル岩石学的研究	110	地質学科		○
	18-理14	火薬ノ結晶学的性質ノ研究	97	鉱物学科		○
	18-理15	写真測量ニヨル地形学的研究	79	地理学科		○
農学部 (20名)	18-農01	繊維作物特ニ麻類ニ関スル研究	80	農学科	熱帯農業員 養成所教師	○
	18-農02	農林畜水産資源ノ兵器材料化ニ関スル研究	61	農芸化学科		○
	18-農03	林産物ノ化学的利用	74	林学科	演習林業務嘱託	○
	18-農04	軍用動物トシテノ騾ノ蕃殖ニ関スル研究	193	獣医学科		○
	18-農05	加里原藻及ビ食用海藻ノ増殖ニ関スル研究	268	水産学科	雇	○
	18-農06	食糧生産機構ノ経営学的研究	344	農業経済学科	日本勸業銀行 書記	○
	18-農07	農業経営学	281	農業経済学科	副手	○
	18-農08	海水ノ濁り、発光及透視度ニ関スル研究	360	水産学科		○
	18-農09	馬ノ蕃殖生理学 特ニ其内分泌学的研究	223	獣医学科	大学院学生	○
	18-農10	熱帯有用樹木学	121	林学科		○
	18-農11	土壤化学特ニ耕地土壤ノ地力増強ニ関スル事項	94	農芸化学科		○
	18-農12	各種農作物ヴァイラスノ不活性化ニ関スル研究	228	農学科		○
	18-農13	棉ノ倍数化ニ依ル育種	565	農学科		○
	18-農14	航空栄養ニ関スル基礎研究	130	農芸化学科		○
	18-農15	熱帯林木育種	105	林学科		○
	18-2-農01	繊維資源トシテ野蚕利用ニ関スル研究	407	農学科	蚕糸試験場嘱託	●
	18-2-農02	木材ノ物理学的性質特ニ誘電的性質ニ関スル研究	54	林学科	大学院学生	●
	18-2-農03	兵食ニ適スル缶詰代替品ノ製造	133	水産学科		●
	18-2-農04	害虫ノ防除及ヒ利用ニ関スル研究	76	農学科	大学院学生	●
	18-2-農05	馬ノ仮性皮痘ノ病理学的研究	144	獣医学科	副手	●
経済学部 (8名)	18-経01	金融論	111	経済学科		○
	18-経02	経済統計	147	経済学科		○
	18-経03	工業政策	110	経済学科		○
	18-経04	社会政策	110	経済学科		○
	18-経05	国防ノ国土計画	149	商業学科		○
	18-経06	政策学特ニ工業政策	120	経済学科		○
	18-経07	[不明]	68	商業学科		-
	18-2-経01	最近経済学説ノ研究	92	経済学科		●
第二工学部 (8名)	18-二工01	特殊鋼ノ研究	119	冶金学科	第一工学部	○
	18-二工02	勢力源トシテノ原子核ノ研究	115	共通第一教室	理学部物理学科	○
	18-二工03	合金ノ固態論的研究	220	共通第二教室	理学部物理学科	○
	18-二工04	船体強度並ニ振動ニ関スル研究	183	船舶工学科	第一工学部	○
	18-二工05	拡散ニ依ル「ガス」ノ分離	131	応用化学科	理学部物理学科	○
	18-二工06	液化ニ依ル「ガス」分離	124	応用化学科	第一工学部 機械工学科	○
	18-二工07	防空偽装ニ関スル研究	280	建築学科	第一工学部	○
	18-2-二工01	熱地向写真感光材料ノ研究	377	応用化学科	第一工学部 応用化学科	×

※本表の学部毎の記載順は「昭和十八年度大学院特別研究生関係」の記載の順の通りとした。

※史料番号は本論文巻末の史料編の番号。

※特別研究生の所属学科・教室名は実際の名称と異なると思われるものもあるが、研究事項解説書に記載されているものをそのまま転載した。

※他大学からの特別研究生は前職欄に(出身大学名)と記した。

※採否欄には最終的に特別研究生に採用された者に○、追加採用された者に●、採用されなかった者に×、取消・辞退者に-を付した。

※〔 〕内は筆者による注記。

表3 大学院特別研究生候補者の研究事項解説書（昭和19年度）

典拠：『昭和十九年度大学院特別研究生関係』による

所属学部	史料番号	研究事項	解説文字数	所属学科・教室	前職(他大学)	採否
医学部 (15名)	19-医01	悪性流行感冒ノ予防及ビ治療ノ研究	401	坂口内科教室		○
	19-医02	耐暑力ト肝臓機能トノ関係ニ就テ	203	柿沼内科教室		○
	19-医03	免疫血清ニ依ル重症火傷ノ治療ニ関スル研究	309	法医学教室		○
	19-医04	細菌ノころいど化並ニ其ノ生物学的応用ニ関スル研究	305	伝染病研究所		○
	19-医05	熱帯潰瘍ノ発生防止及治療法ノ研究	144	皮膚科泌尿器科教室		○
	19-医06	航空医学ニ関スル研究	221	衛生学教室		○
	19-医07	抗マラリア剤ノ合成研究	63	薬学科生薬学教室		○
	19-医08	航空營養ニ関スル研究	58	薬学科		○
	19-医09	諸種呼吸毒ノ中枢神経系ニ対スル作用機転並ニ其ノ対策ニ就テ	101	解剖学教室		○
	19-医10	聴能増強ニ関スル研究	49	生理学教室		×
	19-医11	航空生理学ノ研究、就中、高々度飛行ニ於ケル血相凝固性ノ研究	154	生理学教室		×
	19-医12	発疹チブスニ関スル研究	131	伝染病研究所		×
	19-医13	流行性感冒ニ関スル研究	228	伝染病研究所		×
	19-医14	エックス線ニヨル航空機材料ノ検査法	148	放射線医学教室		×
	19-医15	索敵聴音ニ関スル研究	24	耳鼻咽喉科教室		-
第一工学部 (28名)	19-一工01	電波兵器ノ性能向上ニ関スル研究	148	機械工学科		○
	19-一工02	航空発動機ノ熱流体力学ニ関係シテ海軍委託研究	63	航空工学科 (原動機専修)		○
	19-一工03	艦船用機械ノ防音ニ関スル研究	232	機械工学科		○
	19-一工04	航空計器用強力永久磁石ノ研究	124	冶金工学科		○
	19-一工05	ゴムヲ原料トスル高級潤滑油ノ製造研究(陸軍燃料廠依託) 潤滑油ノ耐寒性増加ニ関スル研究(陸軍行政本部依託)	124	応用化学科		○
	19-一工06	構造部材ノ継手ニ関スル研究	95	土木工学科		○
	19-一工07	急速建造ニ適スル船艦ノ船型学ノ研究	206	船舶工学科		○
	19-一工08	燃焼ト易点火性 特ニ発動機燃料ノ耐爆ト催爆ニ関スル研究	73	火薬工学科		○
	19-一工09	戦用鉱物ノ選鉱学ノ研究	312	鉱山及冶金工学科鉱山専修		○
	19-一工10	戦時構築材料ノ研究	144	建築工学科		○
	19-一工11	暗視装置ニ関スル研究(戦時研究二〇一)	60	応用化学科		○
	19-一工12	航空基地設備ニ関スル研究	105	建築工学科		○
	19-一工13	高々度飛行ニ使用スル電気機器ノ研究	276	電気工学科		○
	19-一工14	「カーボニール」法ニ依ル純金属ノ製造及其利用ニ関スル研究	187	鉱山及冶金工学科鉱山専修		○
	19-一工15	薄板梁ノ強度研究	219	船舶工学科		○
	19-一工16	気体ノ爆発並ニ燃焼ニ関スル研究 特ニ「ロケット」並ニ高々度ニ於ケル発動機燃料ノ研究	75	火薬工学科		○
	19-一工17	アルカリ土金属ノ電解製法ノ研究(海軍技術研究所委託)	74	応用化学科		○
	19-一工18	耐弾構造ニ関スル研究	120	建築工学科		○
	19-一工19	耐熱乾電池ニ関スル研究(陸軍八研依託)	43	応用化学科		○
	19-一工20	発動機試験室ノ防音法ニ関スル研究	95	建築工学科		○
	19-一工21	軍用繊維ノ研究(陸軍被服本廠及陸軍製絨廠委託)	159	応用化学科		○
	19-一工22	戦車用曲軸鑄物ノ研究	151	旅順工科大学冶金工学科	(旅順工科大学)	○
	19-一工23	戦時研究課題番号三五二「簡易軽量ニシテ飛行機上ニ於ケル対地速度、同高度及方位ノ正確ナル測定法」	16	理学部物理学科		○
	19-一工24	都市防空防火ニ関スル研究	112	建築工学科		○
	19-一工25	加里資源ニ関スル研究(内閣戦時研究)	270	日本大学工学部工業化学科	(日本大学)	○
	19-一工26	潜水艦探知ニ関スル研究	115	日本大学工学部電気工学科	(日本大学)	○
	19-一工27	航空機用アルミニウム合金ノ塑性変形ニ関スル研究	130	旅順工科大学冶金工学科	(旅順工科大学)	-
	19-一工28	築城ニ関スル研究	91	建築工学科		-
理学部 (17名)	19-理01	極超短波ノ研究	132	物理学科		○
	19-理02	電波兵器材料ノ研究	166	物理学科		○
	19-理03	放電防止法ノ研究	120	物理学科		○
	19-理04	超硬X線ニヨル材料検査	196	物理学科		○
	19-理05	電波ニ関スル理論的研究	179	物理学科		○
	19-理06	血液凝固防止剤ノ研究	264	化学科		○
	19-理07	電波兵器材料	223	化学科		○
	19-理08	等角写像論	79	数学科		○
	19-理09	等角写像論	80	数学科		○
	19-理10	長期予報ノ研究	178	地球物理学科		○
	19-理11	軍用夜光源ノ研究	167	動物学		○

所属学部	史料番号	研究事項	解説文字数	所属学科・教室	前職(他大学)	採否
理学部 (17名)	19-理12	植物色素ニ関スル研究	123	植物学科		○
	19-理13	真空管製作技術ニ関スル研究	127	物理学科		○
	19-理14	「ジルコニウム」ノ化学的研究	171	化学科		○
	19-理15	海岸並ニ海底地形研究	83	地理学科		○
	19-理16	筋繊維ノ研究	291	動物学科		×
	19-理17	東亜産有用ゴマノハグサ科植物ノ基礎的研究	203	植物学科		×
	農学部 (18名)	19-農01	農地、飛行場ノ構設、並ニ排水管理	221	農業土木学科	
19-農02		海産発光生物ノ研究	150	水産学科		○
19-農03		化学兵器特ニ毒瓦斯ニ関スル研究	140	獣医学科		○
19-農04		木材成分ヲ応用スル航空機用木材接着剤及可塑物ノ研究	335	林学科		○
19-農05		各種食品ニ依リ戦闘力ヲ向上スベキ糧食ノ研究特ニ耐疲労及疲労回復ニ効果アル食品ノ研究	100	農芸化学科		○
19-農06		植物生長ホルモン利用ニ依リ軍用蔬菜ノ増産ニ関スル研究	270	農学科		○
19-農07		敵性国及其ノ属領地ニ於ケル軍用家畜並ニ畜産物ニ関スル研究並ニ調査	269	農学科		○
19-農08		現地自活上航空基地ニ於ケル食糧増産法	153	農芸化学科		○
19-農09		航空機用改良木材ニ関スル研究	335	林学科		○
19-農10		馬ノ人工授精ニ関スル研究	155	獣医学科		○
19-農11		水産動物性潤滑油ノ研究	117	水産学科		○
19-農12		化工木材ノ研究	472	林学科		○
19-農13		醗酵航空燃料ノ製造ニ関スル基礎的研究	255	農芸化学科		○
19-農14		現地自活ヲ目標トスル南方食糧生産ニ関スル研究	200	農学科		×
19-農15		空中戦闘特殊糧食ニ関スル研究	206	農芸化学科		○
19-農16		木材質腐朽菌ノ応用ニ関スル研究	387	林学科		×
19-農17		醗酵航空燃料ノ製造ニ関スル工業的研究	233	農芸化学科		×
19-農18		軍用薬剤増産ニ関スル研究特ニ速成薬用植物育成並ニ成分含有量増加ニ就テ	482	農学科		×
第二工学部 (28名)	19-二工01	土工器材ニ於ケル土ノ切削抵抗ニ関スル研究	158	土木工学科		○
	19-二工02	水中爆発並ニ滲透水等ニ対スル土堤ノ安定問題	95	土木工学科		○
	19-二工03	地盤支持力決定装置ニ関スル研究	137	土木工学科		○
	19-二工04	高速ターゼル機関ノ研究	108	機械工学科		○
	19-二工05	衝撃破壊ニ関スル研究	134	機械工学科		○
	19-二工06	限界層ニ関スル研究	156	航空機体学科		○
	19-二工07	高々度ニ於ケル冷却器ノ伝熱ニ関スル研究	255	航空原動機学科		○
	19-二工08	成層圏用航空発動機ニ関スル研究	235	航空原動機学科		○
	19-二工09	機上交流電源ニ関スル研究	125	電気工学科		○
	19-二工10	電波兵器ニ関スル研究	118	電気工学科		○
	19-二工11	機上用電刷子ニ関スル研究	113	電気工学科		○
	19-二工12	電波兵器ニ関スル研究	116	電気工学科		○
	19-二工13	軍用及生産施設ノ防空の形態ニ関スル研究	167	建築学科		○
	*	軍用並ニ特殊工場ニ於ケル戦時下ノ生産作業能率ニ関スル建築計画的的研究	-	建築学科		○
	19-二工14	耐弾格納庫及地下軍用構造物ニ関スル殻構造法ノ研究	260	建築学科		○
	19-二工15	航空機用強力アルミニウム合金ノ研究(特ニアルミニウム不純地金ニヨル鍛造合金ノ研究)	143	冶金学科		○
	19-二工16	純鉄ノ製造及ビ其ノ利用ニ関スル研究	312	冶金学科		○
	19-二工17	マグネシウム合金ニ関スル研究	150	冶金学科		○
	19-二工18	特殊高性能焼結合金ノ製造及其ノ利用ニ関スル研究	293	冶金学科		○
	19-二工19	航空機用軽合金ノ熱処理ニ関スル研究	207	冶金学科		○
	19-二工20	電気絶縁用(主トシテ高周波用)合成樹脂ノ合成ニ関スル研究	344	応用化学科		○
	19-二工21	アルミニウム電解取率ノ増加法ニ関スル研究	278	応用化学科		○
	19-二工22	赤外線写真材料ノ感光度増加ト保存性ノ研究	370	応用化学科		○
	19-二工23	固気反応装置ノ研究	70	応用化学科		○
	19-二工24	充填筒式吸着装置ノ研究	70	応用化学科		×
	19-二工25	軽金属ノ簡易迅速分析法ニ関スル研究	286	応用化学科		×
	19-二工26	「a オレフィン」ニ関スル研究	261	応用化学科		×
19-二工27	防弾ガラスニ関スル研究	79	応用化学科		×	

※本表の学部毎の記載順は「昭和十九年度大学院特別研究生関係」の記載の順の通りとした。

※史料番号は本論文巻末の史料編の番号。『昭和十九年度大学院特別研究生関係』の中に研究事項解説書の確認できないものには*を付した。

※特別研究生の所属学科・教室名は実際の名称と異なると思われるものもあるが、研究事項解説書に記載されているものをそのまま転載した。

※他大学からの特別研究生は前職欄に(出身大学名)と記した。

※採否欄には最終的に特別研究生に採用された者に○、採用されなかった者に×、取消・辞退者に-を付した。

※〔 〕内は筆者による注記。

表4 大学院特別研究生候補者の研究事項解説書（昭和20年度）

典拠：『昭和二十年度大学院特別研究生関係』による

所属学部	史料番号	研究事項	解説文字数	所属学科・教室	前職（他大学）	採否
医学部 (12名)	20-医01	脳波ニヨル脳疾患ノ診断 脳波ニヨル疲労ノ研究	81	大概外科教室		○
	20-医02	エックス線ニヨル航空機材料及部分品ノ大量検査法	126	放射線科教室	(千葉医大)	○
	20-医03	泌尿器戦傷ノ基礎的研究	172	泌尿器科教室	副手	○
	20-医04	組織呼吸増進剤ノ合成ニ関スル研究	197	薬学科教室		○
	20-医05	呂号兵器甲液安定剤ノ研究	338	薬学科教室		○
	20-医06	創傷治療法ノ研究	84	都築外科教室	副手	○
	20-医07	喝病殊ニ熱射病ノ予防並ニ治療ニ関スル研究	325	物療内科教室	副手	○
	20-医08	航空栄養ニ関スル研究	71	生化学教室		○
	20-医09	化兵剤ノ神経系統ニ及ボス作用	148	解剖学教室		○
	20-医10	脳波（中枢神経系統ノ機能ニ関スル電気生理学的研究）	138	生理学教室		○
	20-医11	航空条件ヲ顧慮シタル呼吸中枢及ビ循環中枢ノ機能ニ関スル研究	191	生理学教室		○
	20-医12	骨折並ニソノ後胎障碍ノ治療ニ関スル研究	204	整形外科教室	(千葉医大)	○
第一工学部 (37名)	20-一工01	航空機用電波標定機ノ研究	167	電気工学科		○
	20-一工02	戦時研究二五-六 飛行場滑走路盤ノ研究 戦時研究二五-七 地下構造物ノ研究	192	土木工学科		○
	20-一工03	防振材料ノ材料学的研究	236	機械工学科		○
	20-一工04b(a)	潜水艦ノ防音ニ関聯シ船体振動ノ研究ヲ実施ス (軍極秘「ロケット水雷」)	237 (248)	船舶工学科		○
	20-一工05	間歇燃焼動圧ロケット（V-1号原動機）ノ研究及試作	25	航空学科 (原動機専修)		○
	20-一工06	爆撃精度ヲ飛躍ノ二向上セシメル研究中主トシテ 爆撃照準具ノ垂直保持方法ノ研究	192	造兵学科		○
	20-一工07	爆撃威力ニ関スル研究	122 (1人 平均 61)	建築学科		○
	20-一工08	金属カルシウム及ビ其水素化物ノ製法ノ研究	96	応用化学科		○
	20-一工09	航空機用「アルミニウム」合金ノ塑性加工ニ関スル研究	288	冶金学科		○
	20-一工10	緊急開発ヲ要スル内地試掘及探掘油田ノ地質精査研究	321 (1人 平均 161)	理学部地質学科		○
	20-一工11	高速ターゼル機関ノ高出力化ニ関スル研究	262	機械工学科		○
	20-一工12b(a)	軍極秘「ロケット水雷」(潜水艦ノ防音ニ関聯シ船体振動ノ研究ヲ実施ス)	248 (238)	船舶工学科		○
	20-一工13	過熱噴流推進装置ノ燃焼ノ研究特ニ「タービンロケット」ノ燃焼器ノ研究及試作	34	航空学科 (原動機専修)		○
	20-一工14	簡易軽量ニシテ精度大ナル飛行機ノ位置及方向ヲ測定スル計器	108	造兵学科		○
	20-一工15	電波地形判別機ノ研究	188	電気工学科		○
	(20-一工07)	爆撃威力ニ関スル研究	122 (1人 平均 61)	建築学科		○
	20-一工16	高周波絶縁用滑石磁器ノ研究	168	応用化学科		○
	20-一工17	鉄素製造ニ関スル研究	205	冶金学科		○
	20-一工18	カルボニル法純金属ヲ原料トスル合金、特ニ特別高性能特殊鋼ノ研究	387	冶金学科		○
	20-一工19	「タービンロケット」ノ性能ノ研究	14	航空学科 (原動機専修)		○
	20-一工20	水測兵器ニ関スル研究	168	電気工学科		○
	20-一工21	戦時構築材料ノ研究	166	建築学科		○
	20-一工22	頁岩油ヨリ航空潤滑油ノ製造研究	106	応用化学科		○
	20-一工23	航空発動機ノ振動吸取装置ニ関スル研究	370	機械工学科		○
	20-一工24	強化木材（殊ニ飛行機用）及其膠着剤	72	応用化学科		○
	20-一工25	地下工場ノ研究	145	建築学科		×
	20-一工26	化学兵器ノ合成研究	98	応用化学科		×
	20-一工27	決戦兵器ノ関係研究	25	航空学科 (原動機専修)		×
	20-一工28	特殊蛍光体ノ製法研究	138	応用化学科		×
	20-一工29	爆弾ノ破壊機構ニ関スル研究	188	建築学科		×
20-一工30	発動機ロケットノ性能ノ研究	13	航空学科 (原動機専修)		×	
20-一工31	軍飛行場ノ施設ノ研究	142	建築学科		×	
20-一工32	航空機工場ノ分散配置計画ニ関スル研究	81 (1人 平均 41)	建築学科		×	
(20-一工10)	緊急開発ヲ要スル内地試掘及探掘油田ノ地質精査研究	321 (1人 平均 161)	理学部地質学科		×	

所属学部	史料番号	研究事項	解説文字数	所属学科・教室	前職(他大学)	採否
第一工学部 (37名)	(20-1-132)	航空機工場ノ分散配置計画ニ関スル研究	81 (1人平均41)	建築学科		×
	20-1-133	潜水艦防音ノ研究	322	機械工学科		-
	20-1-134	珪酸苦土質耐久物及其ノ原料ノ研究	145	日本大学工学部 応用化学科	(日本大学)	-
	20-2-1-101	農事電化ニ関スル研究	108	電気工学科		●(後)
	20-2-1-102	建築計画ニ於ケル基礎的事項ニ関スル研究	80	建築学科		●(後)
	20-2-1-103	建築材料ニ関スル研究	27	建築学科		●(後)
理学部 (23名)	20-理01	高周波強電界に於ける諸現象の研究	85	物理学科		○
	20-理02	真空技術	130	物理学科		○
	20-理03	磁電管に関する研究	102	物理学科		○
	20-理04	磁気材料ノ物理的研究	92	物理学科		○
	20-理05	化学兵器ニ関スル研究	112	化学科		○
	20-理06	電波兵器用可撓性絶縁物「ポリイソブチレン」の製造に関する研究	155	化学科		○
	20-理07	真空管材料無機塩類ノ製法ニ関スル研究	252	化学科		○
	20-理08	「アセチレン」を資料とする固態燃料の研究	178	化学科		○
	20-理09	岩石のカタモルフィズム(分解変質)の研究(殊に戦用資源物資に關聯して)	141	地質学科		○
	20-理10	等角写像論	54	数学科		○→-
	20-理11	太陽放射線ノ電波ニ及ボス影響	146	天文学科		○
	20-理12	暗夜視	210	動物学科		○→-
	20-理13	毒物ノ研究	127	植物学科		○
	20-理14	工業材料及原料ノ研究	79	鉱物学科		○
	20-理15	適性及ビ体力検査法ニ関スル研究	117	人類学科		○
	20-理16	戦事交通の地理学的研究	126	地理学科		×→●
	20-理17	弾性波ニヨル地下探査	124	地球物理学科		×
	20-理18	電波兵器用「ポリイソブチレン」代用材料の研究	188	化学科		×
	20-理19	爆発現象の流体力学的及び分子論的研究	90	物理学科		×
	20-理20	木材ノ炭化並ニ活性炭ニ関スル研究	159	化学科		×
	20-理21	軍需特殊鉱物資源ノ探求	30	鉱物学科		×
	20-2-理01	物理数学ニ現ハレル特殊函数、特ニベツセル函数ノ研究	95	数学科		●
20-2-理02	石炭ノ化学的研究	81	化学科		●(後)	
農学部 (17名)	20-農01	馬鈴薯「バイラス病」害防止ニ関スル生理学的研究	397	農学科		○
	20-農02	纖維素物質(木材、草炭等)ヨリ「アルコール」ノ製造ニ関スル研究	180	農芸化学科		○
	20-農03	航空機用木材硬化積層材ニ関スル研究	212	林学科		○
	20-農04	軍馬ノ馱載能力増進ニ関スル研究	101	獣医学科		○
	20-農05	サプロベル(堆肥)飼料ニ関スル研究	95	水産学科		○
	20-農06	農地、飛行場ノ構設並ニ排水管理	94	農業土木学科		○
	20-農07	水産動物油ヨリ高級潤滑油ノ製造研究	68	水産学科		○
	20-農08	強化木ノ化学的研究	307	林学科		○
	20-農09	ビタミンB2ノ生理作用ニ関スル研究	197	農芸化学科		○
	20-農10	ペニシリンニ関スル研究	208	農芸化学科		○
	20-農11	軍用被服資源ノ腐化精練法ノ改良並ニ航空機資材ノ腐朽防止法ニ関スル研究	288	林学科		○
	20-農12	海中發生騒音源ノ研究	50	水産学科		○
	20-農13	夜間視力増強ニ関スル研究	192	農芸化学科		○
	20-農14	薯ノ増産ニ関スル研究特ニ菊芋ノ栽培法ニ就テ	310	農学科		○
	20-農15	航空機及艦船用木材接着剤ノ研究	271	林学科		×
	20-農16	木材乾溜特ニ松根乾溜ニ関スル研究	229	林学科		-
20-2-農01	農地、飛行場ノ構設並ニ排水管理	96	農業土木学科		●	
第二工学部 (31名)	20-2-101	鉄筋コンクリート船ニ関スル研究	413	土木工学科		○
	20-2-102	電波兵器ニ関スル研究	134	電気工学科		○
	20-2-103	高々度飛行機用排気タービンニ関スル研究	376	航空原動機学科		○
	20-2-104	特殊燃焼室及び燃焼方法ニ関スル研究	265	機械工学科		○
	20-2-105	潜水艦ノ防音(学研三六班研究課題)	256	機械工学科		○
	20-2-106	芳香族燃料ノ合成及之ガ発動機ニ対スル影響ニ関スル研究	230	応用化学科		○
	20-2-107	金属材料ニ於ケル加工応力ノX線的研究	515	冶金学科		○
	20-2-108	自動追従装置ニ関スル研究	149	電気工学科		○
	20-2-109	国産低品位ニツケル鋳ノ精錬ニ関スル研究	202	冶金学科		○
	20-2-110	鉸接手ノ許容応力ニ関スル研究	375	船舶工学科		○

所属学部	史料番号	研究事項	解説文字数	所属学科・教室	前職(他大学)	採否
第二工学部 (31名)	20-二工11	高速空気力学ニ関スル研究	197	航空機体学科		○
	20-二工12	電波兵器ニ関スル研究	246	電気工学科		○
	20-二工13	極超高周波並ニ其ノ電波兵器ヘノ応用ニ関スル研究	257	電気工学科		○
	20-二工14	炭水化物ヨリグリセリンノ製造ニ関スル研究	180	応用化学科		○
	20-二工15	高負荷歯車ニ関スル研究	278	航空原動機学科		○
	20-二工16	帝都ノ戦闘態形ニ関スル技術的方策研究	208	建築学科		○
	20-二工17	波浪中ヲ航走スル船体運動状況ノ研究	243	船舶工学科		○
	20-二工18	化学兵器剤(毒瓦斯)ノ夜間検知ニ関スル研究	352	応用化学科		○
	20-二工19	地下工場及重要生産工場ニ利用スル骨組ニ関スル研究	201	建築学科		○
	20-二工20	爆撃彈道測定ニ関スル研究	98	造兵学科		○
	20-二工21	木製航空機ノ構造ニ関スル研究	305	航空機体学科		×
	20-二工22	岩石カリノ水溶化ニ関スル研究	158	応用化学科		×
	20-二工23	電弧熔接ノ構造力学的研究	367	船舶工学科		×
	20-二工24	カルボニル法ニ依ル含ニツケル粒鉄ノ処理	354	冶金学科		×
	20-二工25	魚雷ノ自動操舵ニ関スル研究	140	造兵学科		×
	20-二工26	電子管用蛍光体ニ関スル研究	281	電気工学科		×
	20-二工27	薄肉構造部ノ衝撃強度ニ関スル研究	326	船舶工学科		×
	20-二工28	金属材料ノ衝撃振りニ関スル研究	195	機械工学科		-
	20-2-二工01	自動制御過程の理論的研究	74	機械工学科		●(後)
	20-2-二工02	遠隔指示装置の研究	111	造兵学科		●(後)
20-2-二工03	ロツシエル塩音響機器の研究	162	電気工学科		●(後)	
法学部 (6名)	20-法01	人事訴訟制度の研究	200	法律学科		(後)
		刑事訴訟法の諸原則	109	法律学科		(後)
		農業法の研究	142	政治学科		(後)
		公法の基礎理論	111	政治学科		(後)
		企業形態法	66	法律学科		(後)
		国家存在論	69	政治学科		(後)
文学部 (14名)	20-文01	日蘭外交史	333	国史学科		(後)
	20-文02	近代支那思想史	193	支那哲学支那文学科		(後)
	20-文03	蒙古史研究	276	東洋史学科		(後)
	20-文04	西欧封建社会史	468	西洋史学科		(後)
	20-文05	諸科学と哲学との関係	466	哲学科		(後)
	20-文06	印度思想ニ於ケル我ト無我ノ問題	244	印度哲学梵文学科		(後)
	20-文07	人の構造の心理学的研究	185	心理学科		(後)
	20-文08	江戸時代ノ倫理想(特ニ古学派ニ就テ)	136	倫理学科		(後)
	20-文09	世界宗教の社会的機能一特にその世界主義的傾向について	295	社会学科		(後)
	20-文10	教材の歴史的研究	221	教育学科		(後)
	20-文11	西欧中世芸術の研究	636	美学美術史学科		(後)
	20-文12	アルタイ語の文法的研究	153	言語学科		(後)
	20-文13	英文学に現れたる英国国民性	165	英吉利文学科		-(後)
	20-文14	スタンダール(Stendhal)研究	159	仏蘭西文学科		(後)

※本表の学部毎の記載順は『昭和二十年度大学院特別研究生関係』の記載の順の通りとした。

※史料番号は本論文巻末の史料編の番号。

※特別研究生の所属学科・教室名は実際の名称と異なると思われるものもあるが、研究事項解説書に記載されているものをそのまま転載した。

※他大学からの特別研究生は前職欄に(出身大学名)と記した。

※採否欄には最終的に特別研究生に採用された者に○、追加採用された者に●、採用されなかった者に×、取消・辞退者に-を付した。採否決定後に変更が生じたものは→で変更後の採否を示した。戦後の採用者・非採用者には(後)を付した。

※〔 〕内は筆者による注記。

※昭和20年度の第2期分は除外した。

表5 研究事項解説書の字数

	昭和18年度	昭和19年度	昭和20年度
法学部	最大	751	200
	平均	140	116
	最小	(84)	66
医学部	最大	172	338
	平均	96	173
	最小	38	71
第一工学部	最大	372	387
	平均	173	152
	最小	52	13
文学部	最大	798	636
	平均	307	281
	最小	89	136
理学部	最大	135	252
	平均	93	125
	最小	47	30
農学部	最大	565	397
	平均	197	194
	最小	54	50
経済学部	最大	149	-
	平均	113	-
	最小	68	-
第二工学部	最大	377	515
	平均	194	247
	最小	115	74
全体	最大	798	635
	平均	170	189
	最小	38	13

※平均の小数点以下は四捨五入している。

昭和十八年度

全体として推薦順位と字数に関連は見られない。

医学部では東北帝国大学に見られたような、新卒でない候補者の字数が多いという傾向は見られなかった（史料番号一八一医〇四は前職が助手であるが、全学部中最も文字数が少ない。なお、以下では史料の番号のみを記すことにする）。

理学部では、発専一八一号「大学院又ハ研究科ノ特別研究生ニ関スル件」（昭和十八年八月二十五日）の第一号書式の「記入上ノ注意」五「学部別ニ一括シ、出来得ベクンバ同一学部中ニ於テモ学

科別ニ纏ムルコト」が遵守されている。

ほか、第一工学部・第二工学部・農学部は候補者によって字数は様々である。

法学部は学部でまとめて一つの研究事項解説書を作成するという、他学部に例を見ない方法を採用している（一八一法〇一）。冒頭の総論部で「国家（附録）の喫緊の要請に応へんとする意図の下に」として「国家的緊要性」に言及し、その後各研究事項の解説を行っている。なかには、「商事法の全般的研究」と「企業形態法」、「農村土地制度の研究」と「都市土地制度の研究」に見られるように、別々の研究事項に同じ解説を施している場合もある。追加推薦の場合（一八一二一法〇一）も、推薦者は指導教官ではなく「東京帝国大学法学部」で、解説も長文である。

文学部は東北帝国大学ほどではないものの、全体として字数が多い。一方、経済学部は学部全体で解説書の表記を統一しているためか、字数のばらつきは少ない。推薦辞退を掲げる海軍主計見習尉官内定の学生の解説書（一八一経〇七）は他に類を見ない。

昭和十九年度

医学部において推薦順位が上位の者の字数が多いほかは、全体として推薦順位と字数に関連は見られない。また、理学部に加えて第二工学部が「出来得ベクンバ同一学部中ニ於テモ学科別ニ纏ムルコト」という指示を遵守し学科をまとめて配列しており、その結果最後に配列された応用化学科にのみ非採用者がでている。農学部林

学科（一九一農〇四、〇九、一二）の字数の多さが特徴的である。一方、医学部の二四字（一九一医一五）と第一工学部の一六字（一九一一工二三）は目立って少ない。

昭和二十年度

昭和二十年度も各学部ともに、名簿順位と字数の関連性は見られない。

第一工学部では、二人の候補者に一つの研究事項解説書をあてるといふ例が見られる（二〇一一工〇七、一〇、三三）。東北帝国大学の事例では、このパターンは見られなかった。なお二〇一一工一〇は一名が採用、もう一名が不採用となっている。

全学部の中では、第二工学部の字数が軒並み多い。第二工学部の二〇一一工〇七が理科系学部中最多の五一五字である。

また、同じ学部内でも学科により字数の特徴があらわれているものもある。農学部では農学科（二〇一農〇一、一四）と林学科（二〇一農〇三、〇八、一一、一五、一六）が他学科に比べても字数が多く、第一工学部の航空学科原動機専修（二〇一一工〇五、一三、一九、二七、三〇）は全学部の中でも群を抜く字数の少なさである。

字数の経年変化

研究事項解説書本文の字数の学部毎最大・最小・平均値の経年変化（表5横軸方向）をみると、医学部・第二工学部は最大・平均・

最小ともに昭和十八年度から昭和二十年度にかけておおむね増加傾向にあったことがわかる。また、文学部・農学部・第二工学部は年度によって差はあるものの、一貫して高い平均値を示している。一方で、第一工学部は昭和十八年度に比べると、昭和十九年度と昭和二十年度は減少傾向にある。全体としては平均値が増加傾向にある。

4. 研究事項解説中に現れた用語

文部省通牒には、解説書には「研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム」という基本的な留意事項が示されていた¹⁰。特に昭和十八年度の法、経、文の各学部の候補者については、国家的緊要性を詳細に記す様にとの追いがあつた。

昭和十九年度以降は、大学院特別研究生に対し、戦時研究に携わる教授や助教授の研究補助員としての役割がより期待されるようになり、文部省通牒は、解説書には「何々委嘱ニ依ル何々ノ研究ニ従事スル教官ノ研究遂行ノタメ幾名ノ補助員ヲ要スベキ処然々ノ事情ニアリ特別研究生何某ハ最適任者ニシテ且絶対不可欠ノ研究要員ナリ」と記載例を示し、明確かつ直截に説明するようにと留意事項が付記されていた¹¹。

昭和二十年度の文部省通牒は前年度とほぼ同様の内容であつた¹²。少し異なる点は「何々委嘱ニ依ル何々ノ研究ニ従事スル教官何某ノ研究遂行ノタメ何名ノ補助員ヲ要スベキ処特別研究生候補者何某ハ然々ノ事情ニアリテ右補助者トシテ最適任且絶対不可欠ノ研究要員ナリ」と特別研究生候補者の現状に触れる様に指示があつた

表6 研究事項解説に現れた用語

分類	用語	研究の必要に 関する用語		研究の必要に 関する用語		研究の必要に 関する用語		研究の必要に 関する用語		研究の必要に 関する用語	
		緊急	必要	緊急	必要	緊急	必要	緊急	必要	緊急	必要
法	緊要	9	1	0	1	0	0	0	0	0	0
		2	0	0	0	2	0	0	0	0	0
医	緊要	6	0	5	6	2	1	0	1	3	2
		1	0	1	3	0	0	0	0	0	0
一工	緊要	7	1	1	2	2	0	0	0	0	0
		2	0	3	0	0	0	0	0	0	0
文	緊要	29	3	10	15	8	0	0	0	0	0
		3	0	1	5	2	0	0	0	0	0
理	緊要	9	0	8	1	1	13	4	9	5	2
		2	0	3	2	0	0	0	0	0	0
農	緊要	3	2	10	0	1	5	30	13	8	10
		2	0	13	2	0	8	1	6	0	1
計	緊要	24	3	39	8	6	16	90	57	29	47
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法	緊要	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		1	0	0	2	1	13	5	2	5	0
医	緊要	4	0	13	1	2	9	40	20	8	18
		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
一工	緊要	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0
		4	0	4	4	11	0	1	0	0	0
文	緊要	2	0	17	1	1	0	2	6	4	8
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理	緊要	7	1	8	7	2	3	31	26	1	28
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
農	緊要	17	1	44	14	6	17	113	59	15	62
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	緊要	70	7	93	37	20	33	203	116	44	109
		5	5	59	19	70	3	2	20	33	203
総計		6	35	0	1	42	5	5	59	19	70

※用語数は研究事項解説書の本文より算出した(題目は除いた)。

と、戦争・軍事に関わる用語、時局に関わる用語、国力増強に関わる用語などを抽出し、年度毎、学部毎にその数を集計したものが表6である。昭和十八年度から昭和二十年度の三年間を通してみると、

研究事項の「国家的緊要性」の説明を含むという基本原則が、用語そのものとしては現れていないことが看取できる。年度毎、学部毎に研究事項解説書の件数や解説に要された字数が異なり、また専門分野によって用い易い用語が異なるため、厳密な比較検討の材料にはならないが、何らかの傾向は読み取ることができよう。

昭和十八年度

まず研究の必要性に関わる用語について見てみる。

「緊要」・「緊急」・「喫緊」などといった研究の緊要性を表す用語は、文科系よりもむしろ工学部・理学部・農学部などの理科系学部が使用しているのがわかる。東北帝国大学では文科系学部が主に使用していたのと対照的である。

つづく研究要員の必要性に関わる用語では、この年度は全く用いられていないことが看取できる。

三つめの戦争や軍事に関連する用語では、「兵器」が第一工・第二工学部の計七箇所と農学部の二箇所、「軍事」が第二工学部で一箇所使われている。文科系では、文学部のみが「戦争」という用語を使っている。「戦争」は、工学部と農学部でも使用している。

時局に関わる用語は、法学部を除いて、いずれの学部も使用しているが、工学部・理学部・農学部の使用頻度が高い。解説書数が多いこととも関係しているのかもしれない。

国力増強に関する用語は、経済学部で一八箇所と多用されており、全ての研究事項解説書に「戦力増強ト聖戦完遂トニ寄与セントスルモノナリ」（一八一経〇二）といった文言が使用されている。また、農学部も一〇箇所使われている。研究事項との関わりで、強調し易い（使いやすい）用語であったものと考えられる。これとは対照的に、法学部・文学部・理学部・第二工学部は全く使用していない。

表6の用語には挙がっていないが、東北帝国大学同様、植民地

統治に貢献するといった、対アジア国家戦略を意識した用語や表現が見られた。

例えば「東亜」は「我国今後の世界竝に大東亜に於て占むべき重要な国際的地位」（一八一法〇一）、「概ネ東亜ニ於ケル欧米勢力ヲ放逐シテ東亜ヲソノ桎梏下ヨリ解放シ、更ニ自覚セル中国ヲ始トシテ東亜諸民族ト相提携シテ大東亜共栄圏建設ノタメ日本民族一体トナツテ闘ヒツ、アリ。以上ノ如ク大東亜戦争勃発及日本ノ指導下ニ於ケル大東亜共栄圏建設ノ歴史的必然性ヲ世界史的観点ノ下ニ考察セントスルモノニシテ」（一八一文〇二）、「皇国ヲ中心トスル大東亜共栄圏ノ完成ニヨリ国家百年ノ大計ヲ樹立」（一八一経〇五）、「当面セル大東亜共栄圏ノ建設ヲ、尊厳ナル皇国体原理ヲ基礎トシテ遂行スル上ニ、極メテ緊要ナル貢献」（一八一二一法〇一）など、日本がアジアにおける主導的地位・役割を果たすべきというイデオロギー的側面から文系学部が多用している。

理科系学部では「大東亜共栄圏は全世界の九〇％以上のタンクステンを産する事は平和後も重要な役割を演ずる事と思ふ」（一八一二一五）といった表現も見受けられた。また、「南方」という語は新資源獲得（ゴム、一八一二一農〇三）および欠乏資源獲得（繊維資源、一八一二一農〇一）という国家的要請に直結する現実的観点から農学部が多用している。それゆえ、農学部の研究事項解説書には「自給」「資源」などの語も多い。

昭和十九年度

昭和十九年度では、文部省通牒の留意事項、特に「何々委嘱ニ依ル何々ノ研究ニ従事スル教官ノ研究遂行ノタメ幾名ノ補助員ヲ要スベキ処然々ノ事情ニアリ特別研究生何某ハ最適任者ニシテ且絶対不可欠ノ研究要員ナリ」という記載例が反映されている例が散見された。

主に第一工学部・第二工学部・農学部・理学部を中心として「補助員」として「絶対不可欠」の「要員」であることが強調されている。ゆえに、○○教授が○○院・○○省から研究依託（委託）がされている、あるいは補助員が不足している現状を述べるなど、研究事項解説の過半がこの点の記述に終始しているものが多い。「戦時」という語が前年度よりも意識的に使用されているのは、その大半が「戦時研究」の一環という理由によるものである。工学部では、「本題目ハ近ク戦時研究課題『二四ノ五』トシテ採択セラル、コトニ内定」（一九一―二工〇三）とするものも見られた。

理学部では、「従来天気予報ハ高々一日後程度ノ天気状態ノ予報ニ終始シタノデアルガ軍作戦、農作物交通機関等ニ対スル被害対策ノ見地カラスレバ数日後、数週後等ニ及ブ比較的長期ノ天候状態ノ予報ガ必要ナル」（一九一―理一〇）という、地球物理学による気象予報研究について、軍事利用の観点から必要性を強調するという点は興味深い。

農学部では、「科学技術動員下ニ於テ研究セントスル事項トシテ文部省ニ提出セシモノノ一部分」（一九一―農一八）と、戦時研究で

あることを主張するものも見られた。

昭和二十年度

全般的に、指導教官が戦時研究動員会議研究委員や陸海軍研究所の嘱託であること、研究事項が軍からの委託研究であることなどを主張する解説書が見られる。

また前年に引き続き、第一工学部・第二工学部を中心として、全学部で網羅的に「補助員」として「絶対不可欠」の「要員」であることが強調されている。

とくに第二工学部は、ほぼ全ての研究事項解説書で「本特別研究生候補者ハ右研究ノ補助者トシテ最適任ニシテ且絶対不可欠ノ要員ナリ」（二二〇―二工〇一）といった昭和二十年度の通牒が示した文例をそのまま引き写したような解説書もみられる。

また「兵器」という用語は、これまでの年度で最も多用されており、「呂号兵器」（二二〇―医〇五）、「航空新兵器」（二二〇―一工〇七）、「決戦兵器の關係」（二二〇―一工二七）、「軍極秘」（二二〇―一工〇四a・二〇―一工二二b）など、解説書中では具体的な研究内容を明らかにしないものもある。むしろ研究内容を伏せているからといって、採否に影響が生じることはなく、あくまで大学側の推薦順位に基づいて決定されたものと思われる。

「資源」の語に着目すると、「戦用資源物質」（二二〇―理〇九）、「石油等ノ如キ地下資源開発」（二二〇―理一七）、「軍需特殊鉱物資源」（二二〇―理二一）、「軍用被服資源」「航空機資材」（二二〇―農一一）

などのほか、医学部における「骨折治療後ノ後胎症ニヨル人的資源ノ損耗ヲ防止セントス」(二〇一医一二)という表現も見られる。戦争による人的・物的資源の不足という目下の状況と研究の緊要性を直結している点で象徴的な語である。

なお、文学部の解説書において戦争に関する用語を使用している例が見られるが(二〇一文〇一、〇三三)、これは戦後に歴史学研究的の一環として戦争を取り上げたものであって、戦時研究とは無関係である。

5. 研究事項解説の改訂・差し換えなど

昭和二十年度の第一工学部の二〇一工〇四と二〇一工一二は研究事項の交換(二〇一工〇四aと二〇一工一二b、二〇一工〇四bと二〇一工一二aは同一研究事項)を行っている。

¹ 戦時下を実施された大学院特別研究生制度にかかわるものとして東北大学史料館に所蔵されている資料は、『大学院特別研究生 昭和十八年度第一期』、『大学院特別研究生関係 昭和十九年』、『大学院特別研究生関係 昭和二十年』である。

² 吉葉恭行「戦時下の大学院特別研究生制度と東北大学」『東北大学史料館紀要』第二号、二〇〇七年、二五～四五頁。吉葉恭行「東北帝国大学特別研究生候補者の研究事項解説書―昭和18年―昭和20年度―」『東北大学史料館紀要』第三号、二〇〇八年、三一

～八一頁。吉葉恭行「戦時下の大学院特別研究生制度と東北大学―元特別研究生への聞き取り調査を中心に―」『東北大学史料館紀要』第四号、二〇〇九年、七五～一〇五頁。

³ 小川智端恵「『大学院特別研究生関係』史料目録(一九四三～一九四五年度)」『東京大学史紀要』第一七号、一九九九年、六五～一三三頁。

⁴ 前掲吉葉論文(二〇〇七年)、二八頁。

⁵ 研究事項解説書は、あくまでも文部省の銓衡委員会のために提出された書類であり、研究の実態を示しているものではないことに留意しておく必要がある。なお研究の実態を知る手掛かりとして、筆者らが実施した東北帝国大学の元大学院特別研究生への聞き取り調査結果の報告を参照されたい。前掲「戦時下の大学院特別研究生制度と東北大学―元特別研究生への聞き取り調査を中心に―」。

⁶ 前掲吉葉論文(二〇〇七)では、東北帝国大学特別研究生候補者の研究事項解説書を翻刻したが、昭和二十年度の分は、八月十五日以前のものに限定していた。

⁷ 発専一八一号「大学院又ハ研究科ノ特別研究生ニ関スル件」(昭和十八年八月二十五日)の第三号書式、吉葉論文(二〇〇七年)の資料4、二九～三〇頁。なお東京帝国大学へも同通牒が送付されている。『昭和十八年度大学院特別研究生関係』(東京大学史史料室所蔵)。

⁸ 字数は、翻刻したテキストデータをマイクロソフトワード2003の文字カウント機能を用いてカウントした。よって改行等

によるスペースなどは除いた実字数が示されている。

⁹ 東北帝国大学法文学部の場合、法学・経済学・文学などの専門が一学部統合された学部であるが、研究事項解説書の字数は、最大一四〇六字、最小一九五字、平均五四五字であった。

¹⁰ 前掲、発専一八一号の第三号書式、吉葉論文（二〇〇七年）、三〇頁。

¹¹ 発専一〇八号「大学院又ハ研究科特別研究生ニ関スル件」（昭和十九年四月十八日）の第六項、同右論文の資料一一、三七頁。なお、東京帝国大学へも同通牒が送付されている。『昭和十九年度大学院特別研究生関係』（東京大学史史料室所蔵）。

¹² 発専二〇号「大学院又ハ研究科ノ特別研究生ニ関スル件」（昭和二十年一月三十一日）の第六項、同右論文の資料一四、四一頁。

¹³ 同右。東京帝国大学へも同通牒が送付されている。『昭和二十年度大学院特別研究生関係』（東京大学史史料室所蔵）。

〔付記〕本稿は、科研費（基盤C）課題番号二〇五三〇六八一「帝国大学生史資料の基礎的研究―東北帝国大学を中心に―」（研究代表者 永田英明）による研究成果の一部である。

（おばた けいすけ 東北大学大学院文学研究科）

（よしば やすゆき 東北大学史料館）

凡例

- 一、一人の大学院特別研究生候補者に対し、複数の研究事項解説書が混在している場合は、成案と判断されたもののみを翻刻した。
- 二、但し、下書きから成案にかけて大きな変更箇所がある場合のみ特に下書きも翻刻した。
- 三、手書きで書き込みがある場合は太字で記した。
- 四、欠損や判読不能の箇所は□とした。
- 五、特別研究生候補者氏名は■とした。
- 六、筆者による注記は「」で記した。疑義のある箇所には傍にマを付し、正しい表記が明らかな場合は傍に「」で示した。
- 七、漢字は原則として常用漢字に改めた。常用漢字にない旧字体についてはそのまま記載した。また使用されている漢字のなかで、辞書的には別体字、俗字と思われるものがあるが、そのまま記載した。
- 八、仮名遣いおよび句読点については原文のままとした。
- 九、便宜上、各研究事項解説書に年度と学部の略称と史料の綴り順を組み合わせた番号を付した。例えば昭和十八年度の第二工学部、綴り順一位の候補者の解説書は一八一二工〇一である。
- 一〇、補欠推薦や追加推薦の解説書は、二を付記して区別した。例えば昭和十八年度の補欠推薦で理学部の名簿順位一位を一八一二一理〇一と表した。

一、昭和一八年度第一期

一・一、法学部

一八一法〇一 法学部関係研究事項解説書

本学部は、現在我国の政治経済社会が急激なる変化の過程にある実情に鑑み、此の情勢に即応して計画的に研究を進め、以て国家^(副誌)の喫緊の要請に応へんとする意図の下に左記研究事項を採択し、それぞれ優秀なる研究生をして其研究に当らしめむとするものなり。

第一 経済の変化に伴ふ法的規律の研究

一 経済統制法

経済統制法は法学にとりて新しき研究分野にして、之に関する系統的研究を為すの必要極めて緊切なるものなるものあり。

二 商事法の全般的の研究

三 企業形態法

経済事情の急激なる変化が商事関係、従つて之に関する法的規律に及ぼしつつある影響極めて顕著なるものあり、これ一方に於て此変化しつつある経済事情に対応しつつ新なる観点より商事法を全般的に検討研究せしめんとすると共に、他方に於て別に新に生成しつつある営団其他各種の企業形態に関する特別の法的研究を為さしめんとするものなり。

第二 土地制度の研究

農山漁村並に都市を通じて、今後我国の経済的变化並に国防的必
要より起生すべき国土に関する諸問題に対処する為め、左記二名を

して一には我国の実情に付き、二には東亜諸国はもとより広く世界各国に付き史的竝に比較的研究を為さしめむとするものなり。

一 農村土地制度の研究

二 都市土地制度の研究

第三 行政制度竝に法理に関する研究

行政制度が全般的に刷新せらるべき氣運に当面し、新なる観点より之に関する理論竝に法的技術の研究を為す必要極めて緊切なるものあるを感じ、左記研究生をして特に此研究を為さしめむとするものなり。

一 行政法理の研究

第四 刑事法竝に刑事政策に関する研究

刑法学全般に付き革新の氣運あり、殊に戦争に起因して刑事法に關係する問題にして新に研究を要すべきもの多々ある実情に鑑み、左記研究生をして特に新なる観点より其研究を為さしめむとするものなり。

一 刑法学の研究

第五 國際情勢の必要に対処する為めの諸研究

我国今後の世界竝に大東亜に於て占むべき重要な國際的地位は自ら幾多の特に研究を要すべき問題を生ぜしむ、依つて左記事項を拵びて其研究を為さしめんとするものなり。

一 外交史

外交史研究の必要が今後愈々増大すべきは勿論にして之に関する研究者を養成するの必要極めて大なり。

二 東洋法制史

支那其他東亜諸国の法制史を研究する者従来極めて少き現狀に鑑み此際特に其研究の重要性を認む。

三 英吉利法系の研究

英吉利法系の世界的地位の現狀に鑑み、更には特に南方統治の必要より考へ、此際優秀なる研究者をして其研究を為さしむる必要を認む。

四 國際私法

我国今後の國際的地位に鑑み将来特に涉外的法律問題の頻發すべきことを考へ此際國際私法研究者の養成を特に必要と考ふる次第なり。

一・二・医学部

一八・医〇一 研究事項解説書

東京帝国大学医学部医学科物療内科学 氏名

指導教官々職氏名 教授 三澤敬義

一、研究事項 戦傷病ノ後療法

一、研究事項解説

一般ニ物理療法就中温泉療法ハ戦傷ノ後療法トシテ必要缺クベカラザルモノナレバ戦傷病ノ治療トシテ物理療法殊ニ温泉療法ヲ研究セントス

一八一 医〇二 研究事項解説書

東京帝国大学医学部医学科佐々内科 氏名

指導教官々職氏名 教授 佐々貫之

一、研究事項 心臓ノ障碍部位ニ関スル実験的並ニ臨床的研究

一、研究事項解説

電心図ニ於ケル諸種波形変化ノ成因、特ニ心臓内ニ於ケル障碍部位ヲ動物実験的並ニ臨床的研究メ、如何ナル部位の障碍ガ如何ナル変化ヲ来スカヲ闡明ナラシメントス

コレニヨリテ凡ソ心臓機能異常ヲ来スベキ、状態ニ於テ、其種類、程度ト共ニ部位ヲ明カニシ、更ニ原因、成因、誘因ヲモ追究シ、以テ其予防、早期発見竝ニ其対策ヲ講ゼントス

一八一 医〇三 研究事項解説書

東京帝国大学医学部薬学科生薬学 氏名

指導教官々職氏名 教授 藤田直市

一、研究事項 纈草根ノ成分研究

一、研究事項解説

纈草根ハ本邦ノ栽培品ニシテ鎮静薬トシテ日本薬局方ニ収載ノ重要生薬ニシテ其各種成分中未決定ノモノニツキ構造ヲ確定スルハ頻用生薬ノ研究ニ関シ重要ナル意義アリ

一八一 医〇四 研究事項解説書

東京帝国大学医学部医学科整形外科 氏名

指導教官々職氏名 教授 高木憲次

一、研究事項 結核性関節炎の関節鏡学的研究

一、研究事項解説

現下緊要ナル結核性関節疾患ニ就キ、ソノ早期検診・鑑別ノタメ関節鏡学的ニ攻究ス

一八一 医〇五 研究事項解説書

東京帝国大学医学部眼科 氏名

指導教官々職氏名 教授 庄司義治

一、研究事項 航空上必要ナル錯視

一、研究事項解説

航空上眼ノ錯覚ガ大ナル意義アルヲ以テ身体各条件並ニ外界条件ノ変化ト錯視トノ関係ヲ研究スルモノナリ

一八一 医〇六 研究事項解説書

東京帝国大学医学部医学科病理学 氏名

指導教官々職氏名 教授 三田村篤志郎

一、研究事項 1、航空病理学ニ関スル研究

2、各種伝染病ニ於ケル生体ノ反応ニ関スル病理組織学的研究

一、研究事項解説

1、実験的低圧性血液酸素減少ニ基ク諸種形態学的変化ト人体ニ於ケル血液酸素減少性疾患ニ際シ諸種臓器組織ニ惹起セ

ラル、変化トヲ比較觀察シ高空病本態究明ニ資セントス
2、各種急性伝染病ノ感染ニ際シテ発現スル生体反応ノ本態ヲ
形態学的ニ把握シテ発病理論ヲ明カニシ延イテハ治療ノ根
本対策ニ資セントス

一八一医〇七 研究事項解説書

東京帝国大学医学部医学科血清学 氏名 ■■■

指導教官々職氏名 助教 緒方富雄

一、研究事項 非特異性免疫現象ノ研究

一、研究事項解説

本現象ハ疾病治療ノ經過中重要ナル役割ヲ演ズルコトハ指導教
官緒方等ノ研究ニヨリテ究明セラレタル所ナルモ尚ソノ前途
洋々タルモノアルヲ以テコレガ研究ヲ徹底シ新領域ヲ開拓セシ
メントスルモノナリ 既往ノ經驗ニ徴シテ種々ノ疾患殊ニ炎症
疾患ニ卓効アル有効物資ヲ捕捉シアルヲ以テ新治療法ノ開拓ニ
ヨリテ病者ノ回復、国民ノ健康保持ニ大ナル貢献ヲナスモノア
ルベシト信ズ

一八一医〇八 研究事項解説書

東京帝国大学医学部医学科都築外科 氏名 ■■■

指導教官々職氏名 教授 都築正男

一、研究事項 外科的結核症

一、研究事項解説

周知ノ如ク外科結核ハ本邦ニ於テモ意外ニ多キ疾患ナルニモ不
拘、現今未ダ尚該領域ニ於ケル研究発表ハ寥々タルモノニシテ
殊ニ其生機序ニ関シテハ諸説紛々トシテ帰趨ヲ得テ居ナイ。而
シテ国家的見地ヨリ觀ルモ其人的戦力保持増強上外科結核ヲ主
眼トシテ之ガ系統的精査研究ニ努ムベキノ必要ナルコトハ言フ
俟タズ

一八一医〇九 研究事項解説書

東京帝国大学医学部薬学科 氏名 ■■■

指導教官々職氏名 教授 石館守三

一、研究事項 「コレチコステロン」類似化合物ノ合成

一、研究事項解説

副腎皮質ホルモン「コレチコステロン」ハ筋肉疲労回復剤トシ
テ緊要ナルモノニシテ之ガ類似化合物ヲ「ヂキタリス配糖体ノ
「アグリコン」ヨリ合成セントス

一八一医一〇 研究事項解説書

東京帝国大学医学部医学科微生物科学 氏名 ■■■

指導教官々職氏名 教授 竹内松次郎

一、研究事項 細菌学殊ニ熱帯伝染病学ニ就テ

一、研究事項解説

熱帯医学殊ニ熱帯伝染病就中「マラリヤ」ニ関シソノ予防及ビ
治療ニ関スル諸問題ヲ研究セシメントス

一八一 医一 一 研究事項解説書

東京帝国大学医学部医学科精神科 氏名

指導教官々職氏名 教授 内村祐之

一、研究事項 脳波ノ研究

一、研究事項解説

脳研究所ニ於テ性能ヨキ脳波ノ装置ヲ得タルヲ以テ種々ナル脳研究条件ノ下ニ脳波ヲ研究シ殊ニ航空医学ニ役立タシムルニアリ

一八一 医二 一 研究事項解説書

東京帝国大学医学部医学科大槻外科 氏名

指導教官々職氏名 教授 大槻菊男

一、研究事項 外科学一般、殊ニ腹部外科

一、研究事項解説

平時ニ於テモ勿論ナルモ戦時ニ於テ多ク見ラル、腹部損傷ホド直接人命ヲ脅ス事大ナルハナシ。コノ損害ヲ極力減少セシメンガタメニ更ニ研究ラス、メントスルモノナリ

一八一 医二三 一 研究事項解説書

東京帝国大学医学部医学科微菌学 氏名

指導教官々職氏名 教授 田宮猛雄

一、研究事項 抗菌免疫ニ関スル研究

一、研究事項解説

一・三・第一工学部

一八一 一工〇一 一 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部船舶工学科 氏名

指導教官 教授 山本武蔵

一、研究事項 船体抵抗推進ニ関スル流体力学的研究

一、研究事項解説

艦船ノ設計ニ就テ其使用目的ニ最適セル優秀船ヲ得ンガタメニハ船其物ノ研究ト推進施設ノ研究トガ必要ナルガ造船ニ就テハ其主要ナルモノハ船体ノ強度ニ関スル方面ト抵抗推進ニ関スル方面トナリ。

艦船ノ抵抗推進ニ関スル研究ハ主トシテ船体水面以下ノ船型研究ト推進器及舵ノ研究ニシテ之等ヲ更ニ深く掘リ下グル時ハ流体力学的ノ研究トナル

従来此方面ノ研究ニハ時ニ流体力学的ノ研究ナキニアラザレドモ大体ニ於テ実験的研究ガ其大部分ヲ占ム斯クノ如キハ今後創意的の進歩発達ヲ期セントスル我国造船科学ノ分野ニ於テ尠カラ

ズ不満ヲ感ゼシムル処トス

本研究ノ目途トスル処ハ抵抗推進ノ方面ニ於ケル諸種ノ問題
ニ就テ理論ノ根本ニ遡ツテ流体力学ノ二精細ナル研究ヲナサ
トスルモノナリ。

一八一エ〇二 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部電気工学科 ■■■■

指導教官 教授 阪本捷房

一、研究事項 超短波ニ関スル研究

一、研究事項解説

電波兵器ニ用ヒラルル超短波ノ発生方法並ニ之ガ利用方法ノ基
礎ヲ研究シ、主トシテ航空機ノ機索及標定ヲ確実化セントス。

一八一エ〇三 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部電気工学科 ■■■■

指導教官 教授 阪本捷房

一、研究事項 電気通信装置ノ研究

一、研究事項解説

敵側ノ電波兵器ヲ逆用シ之ニヨリ航空機ノ敵地接近ヲナサント
メ超短波域ニ於ケル方向探知ヲ有力化スル基礎研究ヲナサント
ス。

一八一エ〇四 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部航空学科(原動機専修) ■■■■

指導教官 教授 中西不二夫

一、研究事項

加熱噴流推進機構及航空用内燃タービンの主として熱及び流体
力学的研究

一、研究事項解説

加熱噴流推進機構

所謂ロケットにして飛行機ノ速度ノ増大を行はんとするもの
で研究はこの機構の中主として燃料ノ燃焼に付て行ふ。

航空用内燃タービン

超大型航空機用大馬力発動機として望まれてゐるもので主と
して燃料ノ燃焼及び圧縮機とタービンの流体力学的研究を行
ふ。

両者共その根本原理は全く同一にして、流体の動力学的応用で
ある故一方の研究は直に他に用ひられるのである。

一八一エ〇五 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部鉱山学科 ■■■■

指導教官 教授 山口吉郎

一、研究事項 石炭及諸鉱石ノ選鉱学的研究

一、研究事項解説

今日ノ時局ニ於テ石炭並ニ諸鉱石ノ生産及其ノ増加ヲ計ルベキハ言ヲ俟タズ、是ニ於テ選鉱ニ依リ、ソレラノ性質品位ノ向上ニ努メテ其利用価値ヲ高ムル一方廢石ノ除去ニ依テ運輸ノ重荷ヲ軽減スルコトハ極メテ国家的緊要性ヲ有スルモノト信セラ、本研究ニ於テハ此問題ニ対シ理論並ニ技術上ノ立場ニ於テ根本的研究ヲ行ハントスルモノナリ。

一八一・一工〇六 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部電気工学科



指導教官 教授 阪本捷房

一、研究事項 超短波装置ノ研究

一、研究事項解説

電波兵器トシテノ超短波装置就中之ガ受信装置ヲ高感度安定化スル基礎研究ヲ行ヒ之等兵器ノ精度ヲ向上スルト共ニ遠距離ニ対シテモ有効ナラシメントス。

一八一・一工〇七 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部力学研究室



指導教官 教授 真島止市

教授 志村繁隆

教授 山内恭彦

一、研究事項 金属材料の物性論的研究

一、研究事項解説

工業材料として最も重要な金属材料の研究に於いて、従来の材料力学的方法では解決し得ない事柄が最近特に多く問題となり之を解決するには金属を構成する分子迄遡つた物性論的研究によらなければならぬやうになつて来た、よつて本研究は量子力学を基礎とする分子論的取扱ひにより金属材料の諸性質を根本的に究明せんとするものである。この問題はあらゆる工業の部門に直接関係のあること今日戦力増強の爲にも必要缺くべからざる研究である。

一八一・一工〇八 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部造兵学科



指導教官 教授 大越諄

教授 西村源六郎

一、研究事項 機関銃ノ研究

一、研究事項解説

大東亜戦争完遂上益々機関銃ノ性能ノ向上發達ノ肝要ナルニ鑑ミ本研究事項ヲ選ブ

主トシテ機関銃ノ銃口圧、消音法、振動除去、命中率ノ向上等ノ研究ヲ行フ

一八一・一工〇九 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部応用化学科



指導教官 教授 厚木勝基

一、研究事項 木材中のリグニンを利用する木材強化の研究

一、研究事項解説

航空機を初めとして、一般兵器に使用さる、木材を強化しその性能を向上せしむると共に更に金属代用として使用し得る強化木材を製作するには現在ベークライト系の合成樹脂を木材中に注入し合板せるが、本研究に於ては木材中に含有せらる、三〇%のリグニンを利用して木材強化の目的を達せんとするものなり。

木材は約五五%の纖維素と約三〇%のリグニンとを含み、リグニンは主として纖維の向隙に存在し纖維膠着の役をなす、本研究に於ては木材をアルカリにて処理しこれを膨潤せしむると共にリグニンを可溶性のアルカリ、リグニンとしてこれをメチル化しリグニンを重合不活性化せしむると共に強圧の下に圧搾し纖維内部の空隙を除去し、リグニンの組織を連続的とし、木材を強化せんとするものにして、これによりベークライトを節約し得るのみならず強化木材に強大なる韌性を与へ得るものと思し得らる。

一八・一八一〇 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部応用化学科

指導教官 教授 亀山直人

一、研究事項 アルミニウム電解浴ノ変質防止ノ研究

一、研究事項解説

アルミニウム電解浴ノ主要成分ハ氷晶石ナリ、氷晶石ハ螢石ヲ原料トシテ製ス、然ルニ我国及ビ勢力圈内ニハ優良ナル螢石乏シク之ガ確保ニハ戦力ヲ必要トス。故ニ氷晶石浴ノ分解変質ヲ防止スルハ国防上極メテ重要ナリ、研究ノ方針ハ変質分解ノ原因ヲ究メ、其傾向ノ少キ電解浴ヲ製セントス。

一八・一八一一 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部応用化学科

指導教官 教授 厚木勝基

一、研究事項 航空機用マグネシウム塗料並に特種塗料の研究

一、研究事項解説

航空機材としてマグネシウム合金の使用は最近著しく増大せるが腐蝕性激しくその防銹塗料の研究発明は緊急を要す。

本研究に於てはマグネシウムの腐蝕が主として酸化によつて生起さるゝにより、それを防止するに適切なる物理性及化学性を有する燃料を研究するものにして、例へば纖維素の高級エーテル又はエステルの如きものを密着性を強化する膠化剤及び溶剤と共に使用し、緊急なる膠着をなさしむると共に酸素を吸収せしむるが如き方針にて研究を進めんとす。

尚同時に電波吸収塗料の如き特種の塗料も考究せんとす、電波を吸収する化合物はグリセリンの如く、既に相当発見されたれどもこれを飛行機に施すに際しては如何なる施工法をなすべき

かを化合物自体の再検討とそれを有する塗料の組成及機体の表面構造より研究せんとす。

一八・一工二二 研究事項解説書

東京帝国大学工学部建築学科 大学院学生 ■■■

指導教官 教授 武藤清

一、研究事項

耐爆構造に関する研究

一、研究事項解説

本研究は爆弾炸裂による爆風圧及び之に対する各種構造物の耐力を究明せんとするものなり。

今日迄の研究に依り空中炸裂弾の爆圧の性質及び之に依る構造物の破壊機構に就き、既に相当の成果を得たるを以つて（履歴書中研究業績の項参照）、今後引き続き之が研究の促進を図ると共に、水中爆裂の場合につきても研究を進めんとするものなり。

本研究の題目は防禦營造物を直接目的とするも所論の拡張に依り、直ちに攻撃的手段の研究に寄与し得る如く努むるものとす。

一八・一工二三 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部建築学科 大学院学生 ■■■

指導教官 教授 岸田日出刀

教授 浜田稔

一、研究事項

重要都市の総力戦的再編成に関する研究

一、研究事項解説

生産を拡充し、戦力を飛躍的に増強せんが為めには我国重要都市は其の構成を再編成し以て全機能を最高度に發揮せしむること緊要なり。

本研究は之に対する具体的方策を研究せんとするものにして都市に於ける人口及び土地に対する建築物の容積配分の現況を実情調査の方法に依つて考究し、戦時下の諸条件を加味し新に容積地域制の体系を整へ、都市機能に應ずる都市形態を明かにし以て都市の再編成を完遂せんとするものなり。

一八・一工二四 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部航空学科 ■■■

指導教官 教授 守屋富次郎

一、研究事項 高速度空気力学ノ研究

一、研究事項解説 飛行機ノ高速化ハ現下ノ帝国ニトリテ最緊要事
ノ一ニシテ之ニ対スル空気力学の難点ヲ解決シ以テ飛行機ノ高性能化ニ資セントスルモノデア

一八・一工二五 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部造兵学科 ■■■

指導教官 教授 三島徳七

教授 大越諄

一、研究事項 金属タングステン精鍊並に其の工業的応用

一、研究事項解説

目的 金属タングステンの応用を全般的に基礎研究をなし製造上の基準を確立せんとす

手段 金属タングステンの応用は殆んど焼結冶金に属す

応用 応用とは通信機、電気接触片、超硬質合金、超々ジュラ

ルミン等戦争遂行上不可缺の範囲を持つ特に超短波真空管材料として不可缺のもので、而して他の多くの応用事項も勿論であるが其の量と質の向上改善は最も多く金属タングステンの性質に係る、

最後に大東亜共栄圏は全世界の九〇%以上のタングステンを産する事は平和後も重要な役割を演ずる事と思ふ。

一八・一工一六 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部冶金学科 ■■■

指導教官 教授 三島徳七

一、研究事項 耐蝕性特殊合金ノ研究

一、研究事項解説

本研究ハ高温ニ於テ耐蝕性ヲ有スル特殊合金ニ就キ未ダ明瞭ナラザル耐蝕性ノ機構ヲ解明シ、以テ優秀ナル耐蝕性ヲ具有スベキ合金ノ出現或ヒハ有効ナル防蝕処理法ノ完成ニ資セントスル

モノナリ、蓋シ右ノ如キ耐蝕性合金ノ発達ハ化学工業用機械、

航空発動機附属品、特殊兵器部分品、電熱装置等ソノ貢献スル所甚ダ大ナルモノアリ。故ニ本研究ノ重要性ハ大ナルモノト思考サレル所ナリ。

一八・一工一七 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部放射工学実験室 ■■■

指導教官 教授 志村繁隆

一、研究事項 金属材料特ニ航空機材料ノX線分光学的研究

一、研究事項解説

金属材料特ニ航空機材料ノ材料学的研究ガ航空機性能向上ニ必要缺クベカラザル事ハ説明ヲ要セズ。然ルニ是ガ研究、試作及大量製産ノ過程ニ於テ未ダ原因不明ノ現象多々アリ。是等ノ解決ニ当リ最モ新シキ方法タルX線分光学的研究ニ期待スル処極メテ大ナリ、故ニ本研究ヲ国家的緊要ナルモノト認ム。

一八・一工一八 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部建築学科 大学院学生 ■■■

指導教官 教授 岸田日出刀

教授 浜田稔

一、研究事項

都市の戦時的再編成に関する研究

一、研究事項解説

我が国の現段階に即応すべき、人口及び施設の適正配分並に適正配置による都市の戦時的再編成は、国家緊急の要務である。

本研究は、人口及び施設に関し、全国都市の実体を明らかにし、併せて、戦時国民生活の確立・生産拡充・国土防衛並に食糧自給の諸観点に基き、それらの適正配分並に適正配置を理論的に考究し、皇国都市の戦時編成に関する基礎理論の確立を期するものである。

更に、その基礎理論の適用に依つて、新興工業都市造成等の生産拡充諸施設の建設・大都市人口疎開等の都市防空対策、亦大震災時の都市復興対策等の国家緊急緊要の諸施策の具体的方策を解明せんとするものである。

一八一―一工一九 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部建築学科

大学院学生 ■■■■

指導教官 教授 平川嵩

一、研究事項

□□□□(用途) 工場の採光改善及び漏光防止に関する研究

一、研究事項解説

現下工業生産の増進を図る可きは緊急の事言を俟たざる所なれど、工場建築の建設、特に適正なる採光方法を施すと否とは生産能率の増進、生産品精度の向上、並に工具の健康保持及び危害防止等影響する処大なり。又灯火管制時に於ける工場の遮光

は現在極めて不備の状態にある為、防空上芳しからず。これが対策として資材を可及的少く且つ有効適切に使用し、然も作業に支障無からしめざるべからず。

本研究は之等工場の採光方法並に灯火管制時の遮光方法を究明せんとするものにして時局下極めて緊要なるものにして、これが完成を期待する処大なるものあり。

一八一―一工二〇 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部力学教室 ■■■■

指導教官 教授 佐々木達次郎

教授 守屋富次郎

助教授 雨宮綾夫

助教授 今井功

一、研究事項 空気力学の研究

一、研究事項解説

本事項ハ航空機ノ性能向上ノ基礎トナルベキ理論ノ研究デアアル
特ニ機体設計等ニ要用ナルハ言ヲ俟タナイ所デアアル。

一八一―一工二一 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部応用化学科 ■■■■

指導教官 教授 亀山直人

一、研究事項 海水ヨリマグネシウム及ビカリウム塩採取ノ研究

一、研究事項解説

マグネシウム塩ハ金属マグネシウムノ原料トシ、カリウム塩ハ光学ガラス或種爆薬ナドノ原料トシテ国防上極メテ重要ナリ。マグネシウム原料トシテ製塩副産ノ苦汁ヲ用フルコトハ種々ナル困難アリ、今日其供給極メテ不十分ナリ。海水ヨリ直接マグネシウム化合物ヲ製シ、之ヲ原料トスルヲ可トス、カリウム塩ハ我国ニ極メテ乏シク海藻、岩石等ヨリ之ヲ製スルニ力メツ、アルモ極メテ不満足ナリ。海水中ニハ多量ニ存スルヲ以テ之ヨリ技術的有利ニ採取スル方法ヲ研究スルモノトス。

一八・一工二二

研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部応用化学科

指導教官 教授 牧鋭夫

一、研究事項 軍用染料ノ合成ニ関スル研究

一、研究事項解説

主トシテ「アンスラキノン」系ニ於ケル堅牢ナル建築染料ノ合成化学ニ就テ研究シ、其結果ヲ軍用被服或ハ各種装備ノ染色方面ニ応用セントスルモノナリ

一・四・文学部

一八・文〇一

研究事項解説書

東京帝国大学大学院（文学部国文学科）

指導教官 東京帝国大学教授 時枝誠記

一、研究事項

敬語法ノ研究

一、研究事項解説

正確ナル文献資料ニ博ク敬語ノ用例ヲ索メ、之ヲ整理シテ国語史上各期ノ敬語法ノ状態ヲ究メ、敬語法ノ変遷消長^{（前略）}ノ跡ヲ詳しく探ネテ以テ国語特有ノ敬語法ノ全貌ヲ明カニセントス、敬語法ノ高度ノ発達ハ国語ノ一大特徴ニシテソノ微妙ナル用法ハ我が国民性ノ発露ナリ、然ルニ敬語法ハ日常卑近ノ言語事実ナルタメ我が国人ハ古来之ニ対シテ深キ省察ヲ加ヘタルコト稀ニシテ、大正十三年山田孝雄博士ノ「敬語法ノ研究」出デテ以来数氏ノ研究ヲ見ルニ至リ敬語法ノ研究ハソノ端緒^{（マダ）}ニ就キタル感アリト雖モ、各時代ノ敬語ニ関スル記述及ビ敬語法ノ史的研究ハ之ヲ将来ニ俟ツ所大ナリト云フベシ、敬語法ニ関スル学的考察ハ我が国民性ノ闡明ニ資スル所大ナルモノアルト同時ニ、今後国語ノ使用地域拡大ニ当リテハ将来ノ国語ノ教授法ニ関シテ寄与スル所亦少カラザルモノアリト信ズ因ニ本人ハ従来特選給費生トシテ本研究ニ従ヒ来レルモノニシテ特別研究生ノ制ニヨツテ特選給費生ハ廃止セラルベキヲ以テ新ニ特別研究生トシテソノ研究ヲ完成セシメントスルモノナリ

一八・文〇二

研究事項解説書

東京帝国大学文学部西洋史学科

指導教官 東京帝国大学教授 今井登志喜

一、研究事項 最近世世界史（日本ヲ本位トシテ）

一、研究事項解説

阿片戦争以来欧米勢力東亜進入ノ趨勢漸ク激化シ、是時迄東亜ハ東亜、欧米ハ欧米各ニ完結セル世界ヲ形成シ、東西ノ交涉極メテ微弱ニシテ互ニ独立ノ生活ヲ営ミ居リシ世界史ノ大勢ニ大變局ヲ来シ、十九世紀末ヨリ二十世紀初頭ニ至ル世界政策ノ時代ニ至ツテ欧米列強ノ東亜ニ対スル帝國主義的侵略愈々甚ダシク、之ニ対シ清國ハマスマスソノ弱体ヲ曝露シ、我國ニ於テハ尊王討幕運動熾烈化シテ遂ニ明治維新ヲ完遂シ、

憲法發布、条約改正ヲ以テ近代の国家体制ヲ整備シ、日清、日露

ノ両役ニ大捷ヲ博シテ世界の強國トシテノ地位ヲ確立シ、米洲ニ於ケルアメリカ合衆國ノ地位ノ確立ト相俟ツテコ、ニ世界の國家系ノ形成ヲ見、言葉ノ最モ具体的ナル意味ニ於ケル世界史ガ成立スルニ至ル。第一次世界大戰ニ遭遇シテ我國ノ國際的地位マスマス向上シ東亜ニ於ケル指導的地位ノ確立セラレントスルヤ、主トシテ米英兩國ハヴェルサイユ會議及ビワシントン會議ニ於イテコノ趨勢ニ制限ヲ課シ、東亜及ビ太平洋ニ於ケルアングロサクソンの國際平和体制ヲ確立セントス。我國ハ之ヲ桎梏ト感ジ、滿洲事變以降支那事變ヲ經テ東亜ニ於ケル新秩序確立ヲ目指シ、コレガ達成ニハ之ニ対スル障害タル東亜ニ於ケル米英勢力ヲ排除スルコト必須条件タルコトヲ身ヲ以テ體驗シ、

遂ニ今次大東亜戦争ノ勃発ヲ見、概ネ東亜ニ於ケル欧米勢力ヲ放逐シテ東亜ヲソノ桎梏下ヨリ解放シ、更ニ自覚セル中国ヲ始トシテ東亜諸民族ト相提携シテ大東亜共榮圈建設ノタメ日本民族一体トナツテ闘ヒツ、アリ。以上ノ如ク大東亜戦争勃発及ビ

日本ノ指導下ニ於ケル大東亜共榮圈建設ノ歴史の必然性ヲ世界史的觀點ノ下ニ考察セントスルモノニシテ、カ、ル研究ヲ帝國大學ニ於イテ行フコトハ現時局下喫緊ノ要務ナリト解信ス。日本乃至大東亜ヲ中心トスル最近世世界史トシテ國史、東洋史西洋史三者ヲ綜合シ、十九世紀以降世界ノ大勢ヲ出来得ル限り根本史料ニ即シテ研究セントスルモノナリ。

一八・文〇三 研究事項解説書

東京帝國大學文學部獨逸文學科

指導教官 東京帝國大學教授 木村謹治

一、研究事項 ドイツ古典時代ノ言語哲學

一、研究事項解説

ハーマン、ヘルダー、フンボルト其他ノドイツ古典時代ノ哲學者、文人ノ言語研究トソノ特質ヲ論究シ、言語ノ本質檢討ニ資スルト共ニ就中フンボルトノ言語哲學研究ニ於イテ、言語ト民族精神、文化ノ相即性ヲ勘考シ、以テ我が國語ト國民精神トノ關係ヲ究明スベキ原理的資料ヲラシメ、併セテ民族言語政策ノ確立ニ寄与セントスルモノナリ。

一八・文〇四 研究事項解説書

東京帝國大學文學部社會學科

指導教官 東京帝國大學教授 戸田貞三

一、研究事項 支那農村社會ノ研究

一、研究事項解説

大東亜共栄圏建設ノ為ニハソノ中心的重要民族タル支那（漢）民族ニ就イテ十分ナル研究ヲ必要トスル。而シテ支那民族ノ根強イ力ノ一ツハ実ニソノ農村社会ニ於テ培養セラレテキルト考ヘラレル。本研究ハコノ根強イ力ノ培養源ノ一ツヲ調査研究シテ大イニ国家ノ要請ニ応セントスルモノデアリ、既ニ本研究者ハ興亜院ノ求メニ従ツテ回数渡支シ若干ノ研究成績ヲ挙ゲテキル。

一八一〇五 研究事項解説書

東京帝国大学文学部心理学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 千輪浩

一、研究事項 記憶ノ研究

一、研究事項解説

所謂精神力ヤ歴史ノ影響ヲ強調スル人ハ多イガ、之等ガ如何ニシテ生ジ、現在ノ我々ニ如何働イテ来ルモノカト云フ点ヲ明確ニ示シテ居ナイ。過去ノ知識、行動其他総ユル経験ノ効果ガ、現在ノ行動ニ如何ナル形式デ、如何様ニ働イテ来ルカヲ明確ニシナイ限りハ、此点ノ科学的明示ハ困難デアル。我々ノ現在ノ情態ノ構造デアル。此現在ノ常態ヲ明カニスルニハ、歴史的原因ヲ探リ、現実ニ働ク経験効果歴史的效果ノ究明ニ依ラネバナラス。記憶研究ハ単ニ憶エルカ否カニ止ラズ、国民ノ現実ノ行動

ヲ規定スル斯カル情態ニ依ツテ生ジテ来タ所以ノ科学的究明デアル。他国人ノ追随ヲ許サナイ我國民ノ精神の力、其行動ノ原因ヲ一層明確ニシ、国民ノ卓絶セル自覚ヲ更ニ鞏固ニシ、適切ナ方途ヲ講ズルコトノ国家的重要サハ多言ヲ要シナイデアラウ。

一八一〇六 研究事項解説書

東京帝国大学文学部仏蘭西文学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 辰野隆

一、研究事項 仏蘭西古典語ノ成立

一、研究事項解説

ギリシヤ、ラテンノ文化ガ十六世紀ルネッサンス運動ニ依ツテ仏蘭西語ノ豊富隆昌ヲ致セルモ一面ニ於イテ国語ノ乱派ヲ醸シタルガ、ソノ国語ノ乱派ヲ一掃シテ明快確實ナルフランス古典語ヲ成立セシメタル経路ヲ研究スルヲ目的トス。此ノ研究ニ依ツテ日本語（古典語）ノ成立ト比較対照セバ現代日本語ノ発生成立推移ニ資スルコト多大ナル可シ。

一八一〇七 研究事項解説書

東京帝国大学文学部美学美術史学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 大西克礼

一、研究事項 芸術論史

一、研究事項解説

東洋殊ニ我が国ガ、世界ニ誇ルベキ文芸美術ノ精華ヲ有スルコトハ、今更喋々ヲ要セズ。然カモコレガ根^(トク)抵ニハ我が民族意識ノ本質ニモトツク特殊ノ芸術觀アリ。本研究ハ此ノ日本の芸術觀ノ發展ヲ、西欧ノソレトノ比較ニヨツテ研究シ、以テワガ国民精神ノ真相ヲ闡明スルノ一助ヲラシメントトヲ期スルモノナリ。思想戰ハ深く且広キ地盤ニ立脚スル程強力ナリ、本研究ヲ強ク其点ニ資セシメントス

一八一文〇八 研究事項解説書

東京帝国大学文学部宗教学宗教史学科

指導教官 東京帝国大学教授 石橋智信

一、研究事項 支那ノ宗教思想並ニ信仰生活

特ニ道教ノ思想、生活研究

一、研究事項解説

現下ノ世界大戰ヲ見ルニ、一ハ樞軸、他ハソ聯。宗教ヲ有テルモノト、宗教ヲ有タザルモノトノ思想争鬪ノ觀、極メテ鮮カナリ。乃至ハ又、反樞軸ノ諸国家ノウチ偶ニ宗教ヲ有スルカノ如キモノアルモ、凡テ、ソレ、個人ノ自由、平等ノ思想ヲ以テ彩ラレタル宗教思想ノミ。国ニ忠、親ニ孝ノ信念ト遊離サレタル宗教信念ノミ。

而モ、宗教ニ反スルソ聯ノ共產思想ハ、今ヤ、重慶ニ滲浸シ山西ニソノ根柢ヲ置キ、国家的米國教ハ蔣氏個人ノ宗教タルナリ。

支那ヲ顧ミ、我帝國ヲ思フ時、宗教戰鬪、思想争鬪ノ要、今日ヨリ急ナルハ無シ。

支那ヲ反宗教ノ共產思想ヨリ救ヒ、自由、平等ノ米國教ヨリ潔ムル道ハ、支那ヲシテ支那本来ノ道教信念ニ自覺セシメ、支那本来ノ相ニ復帰セシムルニ如カズ。

我國ニ、反自由、反平等ノ、宗教ナラザル信念ニ「神社」存シ神道行ハル。支那ニ、マタ、忠孝本義ノ、宗教ナラザル宗教トシテ「聖廟」存シ、儒教行ハル。我國ニ平俗ナル加持祈禱ノ宗教タルト共ニ、深遠ナル哲理ヲサヘ藏スルモノトシテ真言宗派等等存シ、支那ニマタニツヲ兼ネテ、道教行ハル。

道教ヲ究メ、儒教ヲ明ラカニシ、支那本来ノ道ヲ闡明シ、支那ヲシテ本来ノ相ヲ再ビセシメ、布イテハ、東洋全土ヲ東洋独自本然ノ相ニ澁^(字)□タラシムルコソ、今次ノ思想戰ヲ克チ拔キ、我等ノ共存共榮ヲ臻サシメ、東洋樂土ヲ建設セシムル唯一ノ大道タルベシ。

幸ヒ、我等ノ宗教学、宗教史料研究室副手^{■■■■■}、年来支那宗教ノ研究ニ志シ、特ニ、道教研究ニ携アリ。此度、大学院特別研究生ノ制、拓カル、ニ会ヒ、此ニ推挙スル所以、以上ノ如シ。

一八一文〇九 研究事項解説書

東京帝国大学文学部東洋史学科

指導教官 東京帝国大学教授 和田清

一、研究事項 滿洲八旗ノ研究

一、研究事項解説

支那ノ北方塞外諸民族ハ武力精強ヲ以テ史上ニ知ラレテ居ルガソレ等ノ独特ノ兵制ハ頗ル注意ニ値スルモノガアル。有名ナ清朝ノ八旗ハ滿洲族ノ建テタ清朝独特ノ兵制デアルガ、就中ソノ中核ヲナスノガ滿洲八旗デアル。且ソレハ啻ニ兵制デアルバカリデナク清朝社会組織ノ根幹タル重要ルモノデアル。サレバ清朝ノ盛衰ハ実ニコノ八旗制ノ消長ニ因ル所大ナリト云ツテモ過言デハナイ。カクノ如キ滿洲八旗ハ現今我が国ノ大東亜殊ニ支那ニ対スル国策遂行上必ズ参考ニ供サルベキト信ズルノデアル本研究ニ於テハ主トシテ社会史上ヨリ八旗制度並ビニ旗人生活ノ変遷ノ過程ヲ究明シ以テ清朝興亡ノ一因ヲ解明セントスルモノデアル。

一八一〇 研究事項解説書

東京帝国大学文学部言語学科

指導教官 東京帝国大学助教 服部四郎

一、研究事項 安南語ノ研究

一、研究事項解説

安南語ハ専ラフランス人ニヨツテ研究サレテ来タガ、ソレモ充分ニナサレタトハ言ヘナイ。我が国ニ於テハ、最近ニ至ツテ簡單ナ入門書ガ編マレタ程度デ、マダ辞書一ツナイ状態ニアル。一体安南語ハ言語学上所屬不明ノ言語デ、一方ニ於テハタイ語

系カラビルマ語、チベット語ナドニ、又一方ニ於テハカンボジア、マライ半島、ビルマ及ビ印度ニ散在スル所謂南亞細亞系

ノ諸言語ニ關係ヅケラレルモノデ、安南語ノ研究ハ夫レ自身カラ更ニ進ンデ右ノ諸言語トノ比較ニ及ブモノデアル。近時民族

研究ノ必要ガ唱導サレテキルガ、言語研究ハ民族研究ノ基礎ヲ

ナスモノデアルカラ、本研究ハ我が南方經營ニ相応ノ寄与ヲナ

シ得ルモノト信ズル。

シ得ルモノト信ズル。

一八一〇 研究事項解説書

東京帝国大学文学部国史学科

指導教官 東京帝国大学教授 平泉澄

一、研究事項 律令制ノ研究

一、研究事項解説

律令ハ我が国上代ニ於ケル根本法典ニシテ大化改新ノ結果ソノ精神ヲ体シテ天智天皇ノ御代以來歷代ソノ制定ニ努メラレタルモノナリ、ソハ我カ国体ノ本義タル一君万民ノ精神ヲ核心トスルト共ニ外国ノ制度ヲ參酌シテソノ長ヲ採リ混然一体構成セラレタル大法典ニシテ奈良時代ヨリ平安時代ニ及ブ數百年間嚴トシテ国政ノ規範トナリソノ後モ明治ノ初ニ及ブ迄永ク朝政ノ典拠タリシモノナリ、故ニコノ制度ノ研究ハ千年ニ亘ル国政ノ準拠ヲ明カニスルト共ニ我が祖先ガ外国文化ライカニシテ日本文化ニ撰取融合シタルカノ重要事実ヲ知ルニ寄与スルモノナリ。

一八一 文二 研究事項解説書

東京帝国大学文学部英吉利文学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 市河三喜

一、研究事項 米英国国民性ノ研究

一、研究事項解説

米英領国ノ国民性ヲソノ言語文学歴史等文化諸方面フト(挿入)関スル

文献ヲ通ジテ明ラカニセントス。カ、ル研究ノ達成ハコレヲ両

国ノ真相ヲ知悉セシメモツテ敵ニ備ヘルノ助ケトナルコト大ナ

ルモノアラン

一・五 理学部

一八一 理〇一 研究事項解説書

東京帝国大学理学部数学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 末綱恕一

一、研究事項 整数論

一、研究事項解説(研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム)

解析の整数論ノ研究―即チ函数論ヲ用ヒテ整数ノ性質ヲ研究ス

ルモノニシテ物理学、化学等ニ重要ナリ。

一八一 理〇二 研究事項解説書

東京帝国大学理学部物理学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 落合麒一郎

一、研究事項 物性ノ分子論の研究

一、研究事項解説(研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム)

諸材料物質ノ發展ハ工学、化学ノミナラズ物理学ノ協同ヲ要求

シツ、アリソレラノ分子の構造ト物理的諸性質トノ關係モ明カ

ニスルコトニヨリ優レタル材料ニ対スル指針ヲ得ベキモノト期

待サルコノ意味ニ於テ諸材料物質ノ力学的及ビ電氣的性質ヲ分

子論ノ立場ヨリ研究セントス

一八一 理〇三 研究事項解説書

東京帝国大学理学部物理学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 坂井卓三

一、研究事項 物質構造論

一、研究事項解説(研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム)

物質ヲ構成スル分子ノ配列状態、分子相互間ノ結合力ヲ基礎ト

シテ材料ノ物理的性質ヲ研究ス。最初ニ着手スル具体的研究事

項ハゴム状物質ノ弾性ナリ。コレハ纖維性又ハ樹脂性材料等ニ

関聯スル基本的問題ノ一ツニシテ合成有機物質材料時代ニ達シ

ツツアル現状ヨリ見テ重要ナル研究ナリト思考ス。

一八一 理〇四 研究事項解説書

東京帝国大学理学部物理学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 湯川秀樹

東京帝国大学教授 小谷正雄

一、研究事項 量子力学

一、研究事項解説（研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム）

量子力学の多体問題ノ取扱方ヲ研究シ原子核構造及ビ分子構造ノ問題ニ適用スル。之ハ原子核論及ビ量子化学ノ諸問題ノ基礎トシテ重要ナリト考ヘル

一八〇五 研究事項解説書

東京帝国大学理学部物理学科 ■■■■

指導教官 東京帝国大学教授 湯川秀樹

東京帝国大学教授 小谷正雄

一、研究事項 素粒子及ビ原子核ノ理論

一、研究事項解説（研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム）

素粒子論ノ進展ハ本邦物理学界ガ他ニ誇リ得ル一ツノ特徴ト見ラレルガソノ研究ヲ更ニ進メ且ツソノ結果ヲ原子核ノ構造竝ビニ原子核反応ノ問題ノ研究ニ適用セントスルモノデアアル

一八〇六 研究事項解説書

東京帝国大学理学部物理学科 ■■■■

指導教官 東京帝国大学教授 西川正治

東京帝国大学助教授 熊谷寛夫

一、研究事項 極超短波ニ関スル研究

一、研究事項解説（研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム）

極超短波ノ研究ハ国防ニ対シテ極メテ重大ナ關係ガアル。コノ技術ニ於テ敵国ヲ凌駕スルヤウ全力ヲアゲル予定デアアル

一八〇七 研究事項解説書

東京帝国大学理学部地球物理学科 ■■■■

指導教官 東京帝国大学教授 坪井忠二

一、研究事項 地球物理学的方法ニヨリ地殻構造ノ研究

一、研究事項解説（研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム）

主トシテ重力、地磁気、地震波等ノ研究ニヨリ地殻ノ物理的構造並ビニ性状ヲ明ラカニスルト共ニ、測定法及ビソノ結果ノ解析方法ニツキテモ研鑽シ、地球物理学の地下資源探査ニ資ス。

一八〇八 研究事項解説書

東京帝国大学理学部化学科 ■■■■

指導教官 東京帝国大学教授 木村健二郎

一、研究事項 コバルト及ビニツケルノ地球化学

一、研究事項解説（研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム）

本邦ニ於ケル不足重要物資タルコバルト及ビニツケルニ就テ主トシテソノ資源、地球化学的の分布ヲ研究シ、併セテ抽出法、分析法等ニ関スル研究ヲ行フモノナリ

一八〇九 研究事項解説書

東京帝国大学理学部化学科 ■■■■

指導教官 東京帝国大学教授 木村健二郎

一、研究事項 稀元素ノ化学的研究

一、研究事項解説（研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム）

稀元素特ニ時局下緊急ノ用途アルモノニ就テ分析方法ヲ確立シ、ソノ資源、地球化学の分布、抽出法等ニ関スル研究ヲ行フモノナリ

一八一理一〇 研究事項解説書

東京帝国大学理学部動物学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 岡田要

一、研究事項 船底、飛行艇ノ生物著生防止ノ研究

一、研究事項解説（研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム）

船底、飛行艇又水上機ノフロート等ニ特ニ動物ガ附着シテ推進ノ抵抗ヲ増大スルハ衆知ノ事実也。コノ事ハ説明スルマデモナク平時ニ於テハ船舶業者ニ経済の多大ノ損失ヲ与へ、戦時下ニ在リテハ実ニ艦隊並ニ空軍ノ戦鬪力ニモ影響スル所ニシテソノ防止研究ハ一日モ忽ニ為シ得ザルモノナリ。

一八一理一一 研究事項解説書

東京帝国大学理学部植物学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学助教授 服部静夫

一、研究事項 植物色素ニ関スル研究

一、研究事項解説（研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム）

フラヴォン類及ピフラヴァノン類ノ配糖体ニシテ構造未知ノママ残サレアルモノ少カラズヨツテコレヲ闡明スルトトモニ植物系統トコレラ化合物トノ関係ヲモ明ラカニセントス。ナホ將

来起リ得ベキ人造染料ノ原料缺乏ニ対処センガタメコレヲノ天然色素デモツテ安定ナル染色材料ヲ得ントス

一八一理一二 研究事項解説書

東京帝国大学理学部植物学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 田宮博

一、研究事項 光合成ノ機作ニ関スル研究

一、研究事項解説（研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム）

緑色植物ニヨル光合成（炭酸同化作用）ノ現象ハ地球上ニ於ケル有機化合物生成ノ究局的過程ニシテソノ意義タルヤ単ニ農業林業等ノ基礎的事象タルニ止ラズ。正ニ太陽エネルギー利用ニヨル最モ巧緻ナル有機物合成現象ニシテ、ソノ機作ノ解明ハ時局下極メテ緊要ナル研究事項タリ

一八一理一三 研究事項解説書

東京帝国大学理学部地質学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 坪井誠太郎

一、研究事項 地殻ニ於ケル物質移動ニ関スル岩石学的研究

一、研究事項解説（研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム）

地殻ニ於ケル物質分布、鉱物賦存状態等ヲ理解スルニ必要缺クベカラザル研究ニシテ例ヘバ刻下極メテ緊要ナル地下資源ノ分布濃集ニ関スル諸問題ノ解決、多量ノ資源物資ヲ含有スル鉱化溶液ノ誘導作用ノ究明等ニ資スル処多大ナリト期待セラル

一八一理一四 研究事項解説書

東京帝国大学理学部鉱物学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学助教授 伊藤貞市

一、研究事項 火薬ノ結晶学的性質ノ研究

一、研究事項解説(研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム)

火薬ノ特性ノ原因ヲ充分究明スルハ国家的緊要性ヲ有スル研究
デアル。而シテソノ特性ノ一部ハ、火薬ノ結晶学的性質ニ基因
スルヤノ疑ヒガアルノデ、先ヅ火薬ノ主トシテ結晶構造ノ研究
ヲ進メントスルモノデアル。

一八一理一五 研究事項解説書

東京帝国大学理学部地理学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学助教授 辻村太郎

一、研究事項 写真測量ニヨル地形学的研究

一、研究事項解説(研究事項ノ国家的緊要性ノ説明ヲ含ム)

大東亜地域ニ於ケル諸種地形(例ヘバ南支、仏印ノ石灰岩山地
南方地域ノ火山ニユルギニアノ山脈)ノ精細ナル研究ヲ基トシ
測図土地利用ソノ他ノ基礎的智識ヲ得ルヲ目的トス

一・六・農学部

一八一農〇一 研究事項解説書

東京帝国大学農学部 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 佐々木喬

一、研究事項 纖維作物特ニ麻類ニ関スル研究

一、研究事項解説

纖維特ニ麻類ハ戦需上重大ナル役割ヲ有スルモノナルモ目下其
ノ供給不足ス 依テソレ等ニ関スル生理、生態、種類改良、栽
培法等ニ就キ研究シ画期的増産ノ方途ヲ究メントス 以上

一八一農〇二 研究事項解説書

東京帝国大学農学部農芸化学科 ■■■

指導教官 教授 藪田貞治郎

一、研究事項

農林畜水産資源ノ兵器材料化ニ関スル研究

一、研究事項解説

本事項ハ陸軍兵器行政本部ヨリ■■■■ノ指導教官藪田教授ニ研
究命令アリタルモノニシテ■■■■ニ本問題ノ一部ヲ分担研究セ
シメントス

一八一農〇三 研究事項解説書

東京帝国大学農学部林学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 三浦伊八郎

同 同 浅野三千三

一、研究事項

林産物ノ化学的利用

一、研究事項解説

相思樹、マンダローバ、ワットル等ノタンニン、天然樹脂及合成樹脂ニヨル船底塗料並ニ木材接着剤等戦力増強上必要ナル林産物ノ化学的利用ニ関スル研究ヲ行フ。

一八・農〇四 研究事項解説書

東京帝国大学農学部獣医学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 増井清

一、研究事項

軍用動物トシテノ騾ノ蕃殖ニ関スル研究

一、騾馱駝及ビ驢ノ増殖改良ニ関スル基礎的研究

一、解説

騾馱駝及ビ驢殊ニ騾ハ支那及ビ熱帯地方ニ於テ馬ニ代ル可キ唯
一ノ家畜ニシテ馬ニ劣ラザル性能ヲ有シ軍用動物資源トシテ又
一般産業上カラモ其ノ増殖改良ハ最モ緊急ヲ要スルモノデア
然ルニ其ノ蕃殖ハ従来原住民ニ依ツテ行ハレ未ダ原始的ノ域ヲ
脱セズ従ツテ其ノ対策ニ窮スル所以デア
本研究ハ騾馱駝及ビ驢ノ形態 蕃殖並ニ遺伝ノ研究ヲ行ヒ其ノ
増殖改良ノ基礎ヲ確立シ此等家畜ノ増産ト利用トニ資セントス
ルモノデア

一八・農〇五 研究事項解説書

東京帝国大学農学部水産学科 ■■■

指導教官 助教授 国枝溥

一、研究事項 加里原藻及ビ食用海藻ノ増殖ニ関スル研究

一、研究事項解説

今日加里資源トシテ又食用トシテ海藻類ノ重要ナルハ多言ヲ要セザルトコロ、又海藻ハ沿岸魚族ノ棲息所、産卵所トシテ沿岸漁業ニ至大ノ関係ヲ有ス

シカシテ海藻ハ一見無尽蔵ノ観アルモ實際ハ既ニ事変前ヨリ沿岸各所ニソノ減滅ヲ来シイハユル「磯焼け」トシテ漁業界ノ重大問題タリシモノ、今又加里並ニ食糧資源トシテノ大量採取ハ一朝対策ヲ失スレバ数年ナラスシテソノ枯渴ニ瀕スルノ虞多シ（マダ）コノニ今日ソノ対策トシテ実施セラレアル投石磯掃除、移植等ニツキソノ基礎条件ヲ検討明確ナラシメ更ニ之等海藻ノ播種（削除）進ヨル増殖ヲ実現セシ以テ保護増殖ノ基礎ヲ確立セントスルモノナリ

一八・農〇六 研究事項解説書

東京帝国大学農学部農業経済学科

昭和十七年九月卒業 ■■■

指導教官、東京帝国大学教授 磯邊秀俊

一、研究事項

食糧生産機構ノ経営学的研究

一、研究事項ノ解説

(一) 生産主体ニ就イテ

小農経営タル日本農業力弾力性ニ富ム反面戦時食糧生産遂行上

脆弱性ヲ有スル^(トク)ヲ現状ニツキ経営学的ニ究明セントス

(二) 生産対象及方法ニ就イテ

作物、栽培方法、経営方法ニ関シ経済性ヲ検討、而シテ勞力不足、肥料資材不足ニ耐へ、戦時食糧政策ノ適切ナル完遂ヲ可能ナラシムル条件ヲ研究セントス

(三) 農地価格ニツイテ

(一)、(二)ヲ綜合的ニ農地価格ノ動キニヨリ全国的ニ実証シ併セテ大和民族ノ母胎タル可キ自作農ノ創設維持ノ施策上最中心タル農地価格政策ニ示^(ツク)スル所アラントス

(四) 結論

大東亜戦遂行上畜ニ食糧政策ノミナラズ一般産業トノ調和的發展ニヨル戦力、国力増強上必要ナル農家経営政策及其ノ国土計画的立地条件、共栄圈確立ノ嚮導の主体タルヘキ日本農業経営ノアルヘキ方向ノ解明ヲ企テ結論セントス。

一八・農〇七 研究事項解説書

東京帝国大学農学部農業経済学科

昭和十七年九月卒業、大学院学生

指導教官、東京帝国大学教授 磯邊秀俊

一、研究事項

農業経営学

一、研究事項ノ解説

戦争遂行ノ基底タル国民食糧ノ自給確保ハ専ラ農業生産力ノ維

持拡充ニ依存ス。然ルニ近時農村人口ノ工業部面ヘノ大量流出

ハ農業労働力ノ不足ヲ結果シ、農業生産力ノ維持ハ今ヤ漸ク危殆ニ瀕シツ、アリ。農工業ノ調整ニ対スル根本方策樹立ノ要今日ヨリ急ナルハナシ。農業部面ニ於ケル是ガ方策トシテハ、農業経営方式ノ改革ヲ以テ対処スルノ外ナシ。而シテ新タナル経営方式ハ農業経営理論ニ基キテ科学的ニ確立セラレザルベカラズ。本研究ハ農村ニ課セラレタル二大国家要請タル農業生産力維持ト工業労働力供給確保ノ調整ニ資スル為、農業経営理論ニ照シテ最モ妥当ナル経営方式ヲ定立スルヲ目的トスルモノナリ。

一八・農〇八 研究事項解説書

東京帝国大学農学部水産学科

指導教官 東京帝国大学教授 伊東孝一

一、研究事項 別紙

一、研究事項解説 別紙

[別紙]

一、大学院ニ於ケル研究事項

海水ノ濁リ、発光及透視度ニ関スル研究

海上作戦ニ於テ海水透視度ノ重大ナル関係アルハ言ヲマタズ。特

ニ潜艦、揺雷作戦更ニ陸海戦ヲ通ジ水中障害物発見ニ至大ノ関係ヲ

有ス。此ノ海水透視度ハ海水ノ「濁リ」ト直接關係ヲ有スルモノニシテソノ「濁リ」ハ海水中ニ懸濁スル微小粒子及浮游性微小生物ニヨリ決定サル。

サレバ吾專問ノ範圍タル海水中懸濁物及浮游生物ノ研究ヨリ海水ノ「濁リ」ヲ調査シ海水透視度トノ相關々係ヲ研究セントス。

更ニ海水浮游微小生物ハ海水発光現象ノ原因ノ大部分ナリ。此ノモノハ特ニ南方海域ニ甚シキモノニシテ季節潮流海水ノ性質ニヨル影響ヲ受クルコト大ナルモ未ダ之ガ充分ナル研究ヲ見ズ。

夜間航海特ニ沿海小舟艇ノ行動發見ニ大ナル關係ヲ有スルモノナリ。

此ノ発光原因タル微小生物ハ時ニ夥シク發生スルモノニシテ透視度ニモ又大ナル關係アリ。サレバ之ガ生態的研究ヲ合セ行ハントス。

一八一農〇九 研究事項解説書

東京帝国大学農学部獣医学科 氏名 ■■■
指導教官 官職 氏名 東京帝国大学教授 田中丑雄

全 助教授 星冬四郎

一、研究事項

馬ノ蕃殖生理学

特ニ其内分泌学の研究

一、研究事項解説

馬ハ他ノ家畜ニ比シ蕃殖障害多ク、タメニ其蕃殖増産ニ困難ナル点アリ。其原因及ビ之ガ除去ニ関シ、従来研究、対策行ハレ

ツ、アルモ未ダ充分ナリト言ヒ難シ。

性器ノ官能ハ諸、性ホルモンノ支配下ニアルモノニシテ、従ツテ蕃殖障害ノ諸原因中、内分泌学ノ官能失調ニ由来スルモノヲ最モ重要ナル原因トシテ挙ゲザルベカラズ。余ハ性器及ビ生殖ヲ支配スル内分泌器官及ビ其ホルモンノ研究ニヨリテ、馬ノ蕃殖生理ノ機構ヲ闡明シテ、蕃殖障害ノ原因ヲ追究シ之ガ対策ノ完璧ヲ期セント欲ス。

一八一農一〇 研究事項解説書

東京帝国大学農学部林学科 ■■■
指導教官 東京帝国大学教授 藤岡光長

同 同 猪熊泰三

一、研究事項

熱帯有用樹木学

一、研究事項解説

熱帯圏ニ於ケル樹木ノ種類頗ル饒多ニシテ未ダ其名称、性質、用途ノ判明セサルモノ多シ。本研究ハ南方森林ノ合理的利用開発上不可缺ノ事項ニシテ、特ニ刻下ノ喫緊事タル東亜熱帯圏各地ニ於ケル自給建築、造船用材、其他有用樹木ノ基礎的究明ヲ企図スルモノナリ。

一八一農一一 研究事項解説書

東京帝国大学農学部農芸化学科 ■■■

一、研究事項

指導教官 教授 塩入松三郎

土壤化学特ニ耕地土壤ノ地力増強ニ関スル事項

一、研究事項解説

土壤中ニ於ケル物質変化ノ動態ヲ生化学的ニ闡明シ以テ土壤学ノ中枢問題タル耕地土壤ノ地力増強ニ関スル基礎理論ヲ確立セントスルモノニシテ人口及ビ食糧問題ノ解決上急速遂行スベキ緊要研究事項ナリトス

一八・農二 研究事項解説書

東京帝国大学農学部農学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学農学部助教授 明日山秀文

一、研究事項

各種農作物ヴァイラスノ不活性化ニ関スル研究

一、研究事項解説

近來雜穀蔬菜類等ノ食糧作物中特ニ馬鈴薯ニ於ケルヴァイラスニ因ル被害激甚ニシテ戦時下食糧生産ニ多大ノ支障ヲ来シツ、アルニ不拘從來提唱セラレタル防除方法ハ未ダ以テ十分ノ成果ヲ挙ゲ得ザル実状ニ鑑ミ新見地ニ立ツ防除方法ノ研究要請セラレツ、アリ 即品種抵抗性ノ利用種子又ハ種薯ノ処理ノ如キ其一例ナルガ之等ノ基礎原理トナルベキハヴァイラスノ不活性化ナリトス 依テ農作物病原ヴァイラスノ不活性化ヲ中心トシテ研究ヲ進メヴァイラス病防除ノ新原理ヲ究メ決戦下食糧増

産ニ寄与セントス

一八・農一三 研究事項解説書

東京帝国大学農学部農学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 宗正雄

一、研究事項 棉ノ倍数化ニ依ル育種

一、研究事項解説

棉ガ軍需並一般国民ノ必需品ナルハ論ヲ待タザルベシ、而シテ棉花増産ノ必要ニ迫ラレタル今日作付面積ヲ増加スルコトナク從ツテ棉作従事者並農具等ヲ從來ト大差ナキ程度ニ於テ棉花ヲ増産セントスルニハ育種ニ依ルヲ最モ有利トス、而シテ染色体倍数化ニ依ル育種ハ他ノ育種法ニ比シ比較的簡易ナリ

此所ニ研究セントスルハ各種棉ノ同質並異質倍数体作成ニヨル棉花収量ノ増加ニシテ今ソノ可能性ヲ説明スレバ左ノ如シ即チ染色体ヲ倍数化セル個体ハ一般ニ各器官ノ巨大化ヲ来スヲ特長トス故ニ棉ニアツテハ一例ヲ上グレバ印度棉ニ倍体纖維長二・三三種ニ対シ四倍体三・〇九種實棉重量ニ倍体八〇・六一ミリグラム四倍体一・二三・九九ミリグラム種實重量ニ倍体五二・五四ミリグラム四倍体八七・五九ミリグラムナリトス、從ツテ単ニ纖維ノ増産トナルノミナラズ同時ニ又棉実油同油粕モ増産トナルモノナリ 印度棉ハ元來台湾南方地方ニ作付サルル海島棉陸地棉ニ比シテ虫害ニ対スル抵抗性大ナルモ纖維ノ短カ

キ欠点アリシガ倍数化ニヨリ実用化ヲ来ス可能性アルモノトス
更ニ陸地棉ト東洋棉トノ間ノ交配育種ハ従来困難ナリシモ倍数
化ニ依リ之ガ交配育種ハ実行シ得ルコトナルモノナリ
而シテ倍数育種ノ唯一ノ欠点タル稔性ノ低下ハ渋谷氏ノ例等ニ
依レバソノ憂ナキモノノ如ク万一稔性低下ノ恐アルトキハ異質
倍数体ヲ作成スレバ可ナルモノトス

一八一農一四 研究事項解説書

東京帝国大学農学部農芸化学科 ■■■

指導教官 教授 鈴木文助

一、研究事項

航空栄養ニ関スル基礎研究

一、研究事項解説

本研究ハ指導教官鈴木文助教授ガ文部省科学研究ノ補助ヲ受ケ
研究中ノ「空氣減圧下ニ於ケル動物栄養ノ基本的研究」事項ノ
一部ヲ分担セシメ、特ニ航空栄養ト物質代謝ノ關係ヲ生化学的
方面ヨリ研究シ、航空糧食問題ノ基礎ヲ確立シ以テ航空兵力ノ
人的戦力ノ増強ニ資セントスルニアリ、

一八一農一五 研究事項解説書

東京帝国大学農学部林学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 中村賢太郎

一、研究事項

熱帯林木育種

一、研究事項解説

林木育種ハ生産増強上極メテ緊要ニシテ特ニ熱帯ニアリテハ護
謨、規那、タンニン材料、バルサ等産業上頗ル重要ナル樹木生
産物多ク、既往ノ品種改良ニヨリテ生産量ヲ倍加セルモノ尠カ
ラザルモ、尚今後研究ヲ要スル分野広汎ナリ。

一七・経済学部

一八一經〇一 研究事項解説書

東京帝国大学経済学部経済学科 ■■■

指導教官 教授 荒木光太郎

一、研究事項 金融論

一、研究事項解説

経済学特ニ金融論ヲ研究シ、通貨問題、金融機関ノ機構、金融
統制、財政問題、物価問題、等ニツキ内外各国ノ政策及ビ金融
事情ヲ検討シ、国家財政及ビ経済ノ基本ヲ確立シ、東亜共栄圈
ノ基礎ヲ堅メ、聖戦ノ目的完遂ニ寄与セントスルモノナリ。

一八一經〇二 研究事項解説書

東京帝国大学経済学部経済学科 ■■■

指導教官 教授 中川友長

一、研究事項 経済統計

一、研究事項解説

統計学ハ諸般ノ社会的事実ニツキ数量的実証的ニ規画調査スル
為ノ基礎ヲナスモノニシテ、特ニ経済統計ハ国家財政経済ノ規
画整備ノ基本問題ナリ而シテ現下ノ時局ニ於テハ国家総動員ノ
基本計画ニ資シ、且ツ東亜共栄圈内ノ各地域ニ於ケル統計ノ整
備竝ニ其ノ統一ヲ図リ以テ戦力増強ト聖戦完遂トニ寄与セント
スルモノナリ。

一八一經〇三 研究事項解説書

東京帝国大学経済学部経済学科 ■■■

指導教官 教授 油本豊吉

助教授 高宮晋

一、研究事項 工業政策

一、研究事項解説

工業政策ハ経済政策中ニテ特ニ工業経済ニ関スル内外各国ノ根
本政策ヲ研究シ国家経済力ノ發展ヲ企図スルモノニシテ、生産
力拡充、企業整備、国防経済力ノ充実、其他重要問題ノ研究ニ
ヨリテ戦力増強竝ニ聖戦完遂ニ寄与セントスルモノナリ。

一八一經〇四 研究事項解説書

東京帝国大学経済学部 経済学科 ■■■

指導教官 教授 森莊三郎

講師 北岡寿逸

一、研究事項 社会政策

一、研究事項解説

社会政策ハ経済政策中ニテ人的資源ノ培養、生産力ノ増強、労
務管理、其他一般ニ国民ノ厚生問題ニ関スル内外各国ノ根本政
策ヲ研究シ、労働能率ノ増進ヲ通ジテ国家経済力ノ發展ヲ図リ、
以テ戦力増強及ビ聖戦完遂ニ寄与セントスルモノナリ。

一八一經〇五 研究事項解説書

東京帝国大学経済学部 商業学科 ■■■

指導教官 教授 橋爪明男

助教授 今野源八郎

一、研究事項 国防国土計画

一、研究事項解説

国土計画ハ皇国内ニ於ケル凡ユル人的竝ニ物的資源ノ完全且ツ
計画的ナル利用ニヨリテ其ノ最高能率ノ發揮ヲ図リ、生産力ノ
増進及ビ国防経済ノ確立ニヨリテ国家経済力ノ發展ヲ企図スル
モノニシテ、更ニ皇国ヲ中心トスル大東亜共栄圏ノ完成ニヨリ
国家百年ノ大計ヲ樹立シ、以テ戦力増強及ビ聖戦完遂ニ寄与セ
ントスルモノナリ。

一八一經〇六 研究事項解説書

東京帝国大学経済学部 経済学科 ■■■

指導教官 教授 橋爪明男

一、研究事項 政策学特ニ工業政策

一、研究事項解説

經濟政策全般ニ通ジテ其ノ基礎的原理ヲ研究セントスルニ当
リ、特ニ工業政策ニ重点ヲ置クモノニシテ、内外各国ノ經濟政
策ノ根本原理ヲ研究シ、以テ經濟政策ノ基礎確立、生産力ノ拡
充、国家經濟力ノ發展ヲ図リ、戦力増強及ビ聖戰完遂ニ寄与セ
ントスルモノナリ。

一八一經〇七 研究事項解説書

東京帝国大学經濟学部 商業学科 ■■■

本人ハ經濟史及ビ經濟哲学ノ研究ヲ志望シ居タルガ今般海軍主計見
習尉官ニ採用内定シタルヲ以テ大学院ニ於ケル特別研究生タルノ志
望ヲ撤回シタリ。

一・八、第二工学部

一八一二工〇一 研究事項解説書

東京帝国大学第二工学部冶金学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学 教授 吉川晴十

一、研究事項 特殊鋼ノ研究

一、研究事項解説

珪素・クロム・マンガン鋼ハニツケル、モリブデン等不足資源
ヲ使用セザル構造用強靱特殊鋼トシテ最モ有望ナルモノナリ。
本研究ニ於テハ其ノ熔製法熱処理性、滲炭性、熔接性等ニ関ス
ル基礎的研究ヲ行ヒ以テ航空機、戦車等ノ製造ニ対スル資料ヲ

提供セントス。

一八一二工〇二 研究事項解説書

東京帝国大学第二工学部共通第一教室 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 兼重寛九郎

同 山内恭彦

同 助教 渡邊慧

同 菊池真一

一、研究事項 勢力源トシテノ原子核ノ研究

一、研究事項解説

原子核ノ勢力ハ日常生活ノアラユル勢力ノ本源タルガコレノ直
接ノ使用ハ目下ノ所實施サレ居ラズ其ノ實現ノ曉ハ其ノ莫大ナ
ル勢力ノ故ニ軍事産業ニ大革命ヲ齎スコト明白ナリ然モ其ノ実
現ハ決シテ遠カラズト信ズル理由アリ敵国ニ於テモ其ノ方面ノ
研究ノ進ミ居ルニアラズヤト思考セラル右大学院学生ハ此ノ方
面ノ基礎的研究ヲ行フモノトス。

一八一二工〇三 研究事項解説書

東京帝国大学第二工学部共通第二教室 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 谷安正

同 山内恭彦

同 志村繁彦

同 助教 高木豊

一、研究事項 合金ノ固態論的研究

一、研究事項解説

凡テノ兵器並ビニ工業機械ノ重要ナル機材タル合金ノ性質ハ直チニ之等機器ノ性能ノ優劣ヲ決スルモノニシテソノ研究ハ一日トシテ忽セニスル可カラザルモノナリ。而シテ此ノ方面ノ研究ハ従来専ラ工学的冶金学ノ立場ヨリ研究サレ来リタルモノナルガ此ノ徹底的解決ハ物理学ノ最近ノ成果タル原子構造の見地ヲ俟ツテ初メテ可能ナルコト漸次明カニサレ来レリ。本研究ニ於テハ原子構造の見方ヨリ合金ノ性質ニ対スルソノ機構ヲ明カニシ以テ合金学ノ飛躍的進歩ヲ期セントスルモノナリ。

一八一二〇四

研究事項解説書

東京帝国大学第二工学部船舶工学科

指導教官 東京帝国大学教授 井口常雄

一、研究事項 船体強度並ニ振動ニ関スル研究

一、研究事項解説

船体強度ノ研究ハ船舶性能向上ノ見地ヨリ絶対必要ナルモノニシテ性能ノ向上ハ同一強度ニ対シ船体重量軽減ヲ計ルコトニアリ、従ツテ船体ハ薄肉構造物トナリ其レニ対スル特性ヲ完備セザルベカラズ依ツテ船体各部ノ挫屈並ニ船体振動ノ問題ガ主要ナル研究項目ヲナス、本研究ハ船舶性能向上ニ資スルノミナラズ其ノ成果ハ船体重量軽減ニ資スル所アルヲ以テ戦時下資源節

約ノ為メニモ緊急ナルモノトス。

一八一二〇五

研究事項解説書

東京帝国大学第二工学部応用化学科

指導教官 東京帝国大学助教授 福田義民

一、研究事項 拡散ニ依ル「ガス」ノ分離

一、解説

液体燃料ノ合成ニ当リテハ各製造工程ニ於ケル生成物ヲソノ成分及性質ニ從テ適當ニ分離シ此ガ利用ヲ図ラザルベカラズ本研究ニ於テハ金属壁拡散、薄膜拡散、熱拡散ニ依リ混合「ガス」ノ分離ヲ行ヒ、ソノ特性ヲ利用シテ高純度「ガス」ヲ工業的ニ製造シ、液体燃料ノ合成原料ヲ得ントス。

一八一二〇六

研究事項解説書

東京帝国大学第二工学部応用化学科

指導教官 東京帝国大学助教授 福田義民

一、研究事項 液化ニ依ル「ガス」分離

一、研究事項解説

高性能航空燃料ノ合成ニ当リテハ各製造工程中ニ於ケル生成物ヲソノ成分及性質ニ応ジテ適當ニ分離シ此ガ利用ヲ図ラザルベカラズ。本研究ハ従来ノ「リンデ」式「ガス」液化分離法ヲ改良研究シ以テ高性能航空燃料ノ合成ニ於ケル原料ノ製造資料ニ貢献セン

トスルモノナリ。

一八一二工〇七 研究事項解説書

東京帝国大学第二工学部建築学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 星野昌一

一、研究事項 防空偽装ニ関スル研究

一、研究事項解説

防空偽装ヲ分チテ防空偽装ノ基礎事項及ビ防空偽装法トス。

前者ニテ理論研究ヲ行ヒ後者ニテソノ応用ヲ攻究ス。

基礎事項トシテ遠距離認識及ビ航空機ヨリノ対地認識ノ各項、

防空偽装法トシテ建築及ビ灯火管制ノ要偽装限界・偽装方式・

偽造材料ノ諸項アリ。防空ハ国家的緊急事項ナルヲ以テ、アラ

ユル部門ノ知識ヲ総動員シテ此ガ解決ヲ図ラザルベカラズ。即

チ防弾・防火・防毒・偽装・灯火管制等各方面ニ亘ツテ最善ノ

策ヲ取ツテ始メテ万全ノ効果ヲ期スベキモノナリ。

本研究ハソノ一部門タル偽装及ビ灯火管制ニ関スル諸方式ヲ樹

立シ要偽装建築トシテ最モ多キ工場建築ノ偽装ヲ速ニ実現シ生

産確保ニ資セントス。

一・九・補欠推薦・追加推薦の分

一八一二一法〇一

大学院特別研究生志願者 ■■■ハ、東京帝国大学法学部ニ在学

中昭和十四年、法学部ニ於ケル「民族ト政治」ナル懸賞論文ニ応募シ、

優秀ナル多数ノ応募者ノ中一席ノ賞ヲ与ヘラレタルコトアリ。

該論文ハ特ニ緑会雑誌第十一号ニ掲載セラレタルモノナルガ、新シ

キ哲学的国家学樹立ヘノ努力ノ一ツノ試ミトシテ推賞ニ値シ、論理

的ナル立場ノミナラズ歴史的内容ヲ豊カニ撰合シ、和漢洋ノ古

典ニ関スル相当ノ研究ヲ含ム一労作ニシテ、学生ノ論文トシテハ蓋

シ注目ニ値シタルモノナリ。同人ハ又昭和十五年卒業直後、読売新

聞社ノ広く一般ニ応募セル「中国民衆ニ告グ」ナル懸賞論文ニ応募

シ、多数ノ応募者中一席ニ當選シ、賞金一千円ヲ受ケ、同新聞紙上

ニ連載セラレタルノミナラズ、支那民衆ニ対スル思想工作トシテ活

用セラレタルコトアリ、東亜新秩序ニ関スル優レタル一労作ト言フ

ベキモノナリ。昭和十七年大阪高等学校ニ赴任シタル後、日本国家

学ノ研鑽ニ全力ヲ傾注シ、多ク日本古典ニツキ熱烈ナル勉学ヲ継続

シツツアリ、ソノ研究ノ一端ヲ「日本国家論」ト題シテ「日本学研

究」(昭和十八年一月、国家論研究号)ニ発表シタルコトアリ、皇

国体ノ原理ニ対シテノ真摯ナル探求ヲ披瀝シ、且ソレヲ大東亜新秩

序トノ関聯ニマデ展開セルモノナリ。同人ハ東京帝国大学在学中ノ

一般成績ハ特ニ優秀ト言ヒ得ザルモ、特ニ政治学乃至国家論ニ於テ

ハ拔群ノ成績ヲ示シ、政治学政治学史ノ演習ニ参加セル際モ、ソノ

報告及ビ討論ニ於テ卓抜ナルモノヲ示セル等、コノ方面ノ研究能力

ハ誠ニ瞩目スベキモノアリ。特別研究生トシテ研鑽ヲ積マシムレバ、

ソノ成果大ナルモノアルベク、皇国ノ今ヤ当面セル大東亜共榮圈ノ

建設ヲ、尊嚴ナル皇国体原理ヲ基礎トシテ遂行スル上ニ、極メテ緊

要ナル貢献ヲ為スベシト信ジ、ココニ同人ヲ推薦スル次第ナリ。

昭和十八年十月二十二日

東京帝国大学法学部

一八二一工〇一 研究事項解説書

東京帝国大学第一工学部 本人 ■■■

指導教官 教授 志村繁隆

教授 山下英男

一、研究事項

透過X線ニ依ル航空機材料検査法ノ研究

一、研究事項解説

高電圧或ハ大電流ニ依ル強力X線ヲ使用シ航空機材料ノ缺陷ト強度其ノ他ノ性能トノ関係ヲ研究シ更ニ進ンデ完全ニ且ツ迅速ナル缺陷検査法ヲ研究セントス
右ノ研究ハ未ダ不充分ナル点極メテ多ク特ニ缺陷検査法ニ至ツテハ現下ノ必要ヲ満スモノハ殆ンドナキ状態ナリ
依ツテ以上ノ研究完成ハ航空機ノ性能完璧^(マツ)ヲ望ム今日国家的必要ナモノト認ム

一八二一工〇一 研究事項解説書

東京帝国大学文学部倫理学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 和辻哲郎

一、研究事項 日本民族ノ倫理学的研究

一、研究事項解説

コ、ニ日本民族ト称スルハ、祭祀ヲ中心トシテ起レル種々ノ年中行事ノ類ヲ初メ、民間ノ生活規矩トシテ今猶存続セル種々ノ風習ニシテ、近時日本民族学ガ研究ノ対象トセルモノナリ。コレラハ本来倫理的意義ヲ有セルモノナルニ拘ラズ、現在ソノ意義ノ忘失セラレタルモノ少ナカラズ。依ツテコレヲ十分実証的ニ調査整理シ、更ニソノ本来ノ倫理的意義ヲ明カナラシムル事ハ、タゞニ日本固有ノ道德ノ闡明ニ資スルノミナラズ、更ニ大東亜圏^(挿入)フト諸民族ノ固有^(削除)民族ニ対スル理解ヲ深メ、大東亜圏ノ経綸ニ寄与シ、兼ネテ又現下ノ思想戦ニ資スルトコロ大ナリト信ス

一八二一工〇二 研究事項解説書

東京帝国大学文学部国文学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 久松潜一

一、研究事項 国学ノ研究

一、研究事項解説

国学ハ近世ニ於テ荷田春満、賀茂真淵、本居宣長、平田篤胤等ニヨツテ、力強ク自覚セラレタ学問デアツテ、大和魂ヲカタメタ上ニ確立サレル学問デアリ、国体ノ本義ニ立脚スル学問デアルガソレハ近世ノミナラズ古代カラノ日本学問ノ伝統デアリ、近世以降ニ於テモ一貫スル日本学問ノ精神デアル。カウイフ国学ノ精神ヲ明ラメルコトガ、今日ニ於ケル日本学問ノ根^(マツ)抵^(マツ)ヲナシテ居ルトイフ見解ノモトニ、国学ノ研究ニヨツテ古典ヲ究

メ肇國ノ精神ヲ明ラカニスルトトモニ古今ヲ貫ク皇國ノ學問ノ
根柢ヲ固メヨウトスルノガ本研究デアアル。

此研究ハ大イニ現時ノ思想戰ニ貢獻スル方向ニ發展セシメル事
ヲ期シテ居ル。

一八一—文〇三 研究事項解説書

東京帝国大学文学部印度哲学科

指導教官 東京帝国大学教授 宮本正尊

東京帝国大学助教授 花山信勝

一、研究事項 東亞諸民族ノ生活ト戒律

一、研究事項解説

コノ問題ハモトヨリ印度ノ宗教的行法一般トノ關係ハ深イモノ
デアアルガ大東亞圈ニ於テハ国民皆僧トモ云ハレル「ビルマ」及
ビ「タイ」ノ国民生活ト戒律トノ問題ガ重要ナル研究事項デア
アル。マタ大乘仏教國デアアル支那及ビ日本ニ於ケル戒律問題モ大
乗小乗ノ關係ヲ考察スル際ニ緊要ナ事項デアアルバカリデナク仏
教ガ民族及ビ国民ノ生活ニ及ボシタ規律行儀作法秩序鍛鍊志氣
ニ互ル行ノ持ツ意義ハ大キイノデアアル。大東亞新秩序建設ニ
寄与センガ為メワガ国民精神ソノ他東亞ノ諸民族ノ生活ニ及ボ
シタ仏教ノ感化ヲ今ハ特ニ戒律ノ視点ヨリ研究セントスルモノ
デアアル。

一八一—農〇一 研究事項解説書

東京帝国大学農学部農学科卒業

指導教官 教授 渡邊勘次(印)

一、研究事項

纖維資源トシテ野蚕利用ニ関スル研究

一、研究事項解説

戰爭遂行上並ニ、支那及南方諸民族宣撫上、衣料纖維ノ必要ナ
ルコトハ言フ迄モナイ、然ルニ大東亞共榮圈ヲ通ジテ纖維資源
ノ狀況ヲ見ルニ棉花、羊毛ハ従来米英等敵性國家側ヨリ主トシ
テ生産セラレ共榮圈内ヨリノ生産ハ如何ニ増産ニ努メテモ尚頗
ル貧弱デアアル、又人絹、スフ、ニ付テハ其ノ原料タルバルプハ
我國ニ於テ自給セラル、域ニ達シタルモ之ガ生産過程ニ於テ必
要ナル苛性曹達石炭等ノ不足ニヨリ減産ノ一途ヲ辿リ麻ノ生産
又僅少デ軍需ヲサヘ充シ得ナイ、只独リ蚕繭ノミハ我國ノ養蚕
業ノ維持ニヨリ相当數量ノ確保ガ出来ルケレドモ之トテ年々著
シキ減産ヲナシ結局共榮圈全体トシテノ纖維ハ不足シテキテ何
等カノ施設ヲ講ジナケレバナラナイ現状デアアル
ソコデ天然絹糸ノ資源デアアル野蚕、特ニ滿洲、北支ニ対スル柞
蚕、日本内地ハ勿論南方熱帶地域ニ対スルエリ蚕等ヲ主体トス
ル野蚕ノ研究ニ依リ纖維資源不足ノ欠陥ヲ補フコトハ、纖維問
題解決上、重要ナル事項デアアルト信ズルノデアアル

一八一―二―農〇二 研究事項解説書

東京帝国大学農学部林学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 藤岡光長

同 同 西川正治

一、研究事項

木材ノ物理学的性質特ニ誘電的性質ニ関スル研究

一、研究事項解説

本研究ハ現下特ニソノ必要ヲ認メラル、航空機用強化木ノ造成ニ資セントスルモノニシテ極メテ重要ナル研究項目ナリ。

一八一―二―農〇三 研究事項解説書

東京帝国大学農学部水産学科 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 森高次郎

一、研究事項 兵食ニ適スル缶詰代替品ノ製造

一、研究事項解説

従来缶詰ハ兵食トシテ広く使用セラレアリシガ資材トシテ多量ノ鋼及錫ヲ要シ且ツ其ノ製造ニハ複雑ナル設備ヲ必要トス

カ、ル缺点ヲ除ク為メ例ヘバ南方過剰物質タルゴムノ適当ナル誘電体ノ皮膜ヲ以テ食品ヲ被覆シ然ル後加熱殺菌スルガ如キ方法ニ拠リ簡易ニ、貯蔵ニ耐ユル食品ヲ製造セントス

法ニ拠リ簡易ニ、貯蔵ニ耐ユル食品ヲ製造セントス

一八一―二―農〇四 研究事項解説書

東京帝国大学農学部農学科 ■■■

一、研究事項

害虫ノ防除及ヒ利用ニ関スル研究

一、研究事項解説

温度、湿度、気圧等ノ物理的要因ニ対スル害虫ノ抵抗性並ニ薬剤ノ殺虫機構ヲ究メ人畜農林害虫ノ防除ヲ図ルノミナラス特殊兵器ソノ他ノ利用ニ資セントスルモノナリ。

一八一―二―農〇五 研究事項解説書

東京帝国大学農学部獣医学科 氏名 ■■■

指導教官 東京帝国大学教授 江本修

一、研究事項 馬ノ仮性皮痘ノ病理学的研究

一、研究事項ノ解説

本病ハ *Saccharomyces farcinus* (時重) ニヨツテ起ル馬ノ悪性伝染病デ東亜共栄圏諸地域ニ流行シ我が出征軍馬ニシテ感染スルモノガ多イ。本病ハ潜伏期ノ長イ事其他ノ事情ニヨリ臨床的ニ早期ノ発見困難ノタメ検査網ヲ通過シテ屢々内地ニ潜入シ内地ノ馬産上ニモ影響シテキル。故ニ本病ノ病理ヲ究明シ免疫学的ニ早期診断法ヲ確立セントス。

一八一―二―經〇一 研究事項解説書

東京帝国大学経済学部 経済学科 ■■■

指導教官 教授 荒木光太郎

一、研究事項 最近経済学説ノ研究

助教授 安井琢磨

一、研究事項解説

欧米各国ニ於ケル最近ノ経済学説ヲ研究シテ其ノ思想界ノ傾向ヲ明ニシ、皇国経済思想ノ確立ヲ図リ、皇国経済体制ノ完備及ビ思想戦ノ必勝ヲ期シ、以テ戦力増強及ビ聖戦完遂ニ寄与セントスルモノナリ。

一八一―二二工〇一 研究事項解説書

東京帝国大学第二工学部応用化学科

指導教官 東京帝国大学教授 亀山直人

同 助教授 菊池真一

一、研究事項 熱地向写真感光材料ノ研究

一、研究事項解説

熱地ニ於テ写真感光材料(フィルム、乾板、印画紙)ハ変質著シク感光度ヲ低下シ、カブリヲ生ジ殆ンド保存使用ニ堪ヘザル状態ナリ。依リテコレガ改善ハ最緊急ノ事ニ属ス。教授亀山直人、助教授菊池真一ハ夙ニ陸軍第八技術研究所ヨリ表題ノ如キ研究ノ委嘱ヲ受ケ目下鋭意研究中ナルモ今回■■■■ヲシテコノ研究ノ一部ニ当ラシメントス。

本研究ノ従来ノ結果ハ主トシテ包装ノ種類ト感光材料ノ劣化ノ関係ニ就キ一応ノ結論ヲ得タリ。サレド包装材料以外本質的問題ナル乳剤ノ研究ヲ行フニ非ズンバ独逸国アグファ社製品ノ最

高級フトニ及ビ難シ、依リテ今後ハ主トシテコノ方面ノ徹底的研究ヲ行ハントス。

吾国写真工業会社モ軍ノ命令ニヨリ早くヨリ此種研究ヲ行ヒ居レドモ尚望マシキ結果ヲ得ザルモノノ如ク、東京帝国大学第二工学部ニ於テ両教官指導ノ下ニ優秀ナル特別研究生ノ専心研究ヲ行フハ最モ有意義且必要ナル事ナリ。

〔付記〕昭和十九年度、昭和二十年度分は、次号に続く。